

REPORT

2024 年度
ハワイ
海外研修
報告書

公益財団法人 日本訪問看護財団

はじめに

我が国では、新たな地域医療構想のもと、地域の実情に沿った医療提供体制の再編および、医療・保健・介護・福祉サービス体制を模索しています。「我が家で最期まで暮らしたい」という高齢者の想いをかなえるためには、若い世代が「この町で暮らしたい」と思える地域づくりをしていかななくてはなりません。一方、過疎地の自治体であっても、幅広い世代や属性をもった住民が交流し、地域課題の解決に取り組み、都市部から人を惹き付けるような動きも少ないですが散見されるようになりました。これからの訪問看護は、ただ単に医療・介護サービスを提供するだけではなく、各地域で、多様な人々となつなぎ、地域を“元気にする”役割も担っています。つまり、これまで以上に、訪問看護師は、医療や介護の枠を超えて、異業種や多職種と協働し、課題を共有・発信するためのプレゼンテーション能力や、国際的な視座を持った柔軟な対応力が求められています。

そこで、今回当財団は、これからの多様化・国際化社会を見据え、訪問看護師が地域の中核人材として活躍できる人材育成プログラムを考案しました。これまでの海外視察研修とは違い、研修生が訪問看護活動をわかりやすくプレゼンテーションする力を身につけ、主体的に企画・運営に携わり、海外という異文化の場でも多業種、多世代とつながる機会をもてるプログラムです。日本の多業種の企業や自治体とも知り合うことが可能です。研修修了後には、自事業所がある地域に戻り、新たな活動の創出へとつなげられる人材ネットワークの構築活動も視野に入れていきます。

今後、受講した若手の訪問看護師が地域医療の未来を支える訪問看護の中核人材として、各地でその力を発揮していくことを心より期待しています。

最後に、シャミナード大学教授の Daniel Weiss 先生、Nagomi Foster Homes 三浦佳代子様、通訳者として同行頂いた早野真佐子先生（東京保健医療大学国際交流プログラムアドバイザー）をはじめとする、関係者の皆様に御礼を申し上げます。

公益財団法人 日本訪問看護財団

常務理事 平原優美

目次

1. プロジェクト概要
2. ワークショップ
3. ハワイ研修
 - 1) 行程表
 - 2) シャミナード大学
 - 3) Nagomi Foster Homes
 - 4) ホノルルフェスティバル

コラム:タイ(プリンス・マヒドン賞サイドミーティング)での発表

Appendix:各自のプレゼンテーション資料

1. プロジェクト概要

1) テーマ: 日本初の教育プログラム！海外での体験を通して、コミュニティで活躍できる訪問看護になる

2) プロジェクトの目的:

- 海外での視察やホノルルフェスティバルでのブースでのプレゼンや交流を通して、今後の地域のコミュニティで活躍できる訪問看護師を育成する
- 今後の地域医療、地域の訪問看護を担う中核人材となるような若手訪問看護師のネットワークを構築する
- ブース出展により広く訪問看護を知ってもらう

3) 研修生: 全国から選ばれた訪問看護ステーションに所属する看護師 10 名

	氏名	所属
1	河西 真理子	あすか山訪問看護ステーション
2	林 聖奈	だいもん訪問看護ステーション
3	井手 佳菜	MEIN HAUS 訪問看護ステーション
4	高田 雄貴	ケアプロ訪問看護ステーション東京
5	ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション ここここ
6	荒木 美穂	楓庵訪問看護・リハビリステーション
7	富田 のりこ	訪問看護ステーション駿河
8	根岸 由依	すみれ訪問看護ステーション
9	朝倉 之基	Five Star 訪問看護・栄養管理 Station
10	小口 妃小江	訪問看護スマイルナーシング名城

他、ハワイ研修での通訳および英語プレゼンテーションの講師として、早野真佐子先生(医療福祉ジャーナリスト/東京医療保健大学国際交流プログラムアドバイザー)に参画頂いた。

4) プロジェクトの構成

(1) ワークショップ

ワークショップは合計4回開催

(2) グループワーク

- ① 英語のプレゼンテーションの構成を5人ずつのグループにわかれ検討するグループワークを実施
- ② ホノルルフェスティバルでの展示の企画を考えるグループワークを実施

(3) 他 slack 使い方、字幕の入れ方などの説明会を開催

- ① オンラインでの研修生同士の交流をはかるために日々のコミュニケーションや連絡は Slack を活用した。その Slack の使い方の説明会をオンラインで開催した
- ② 英語プレゼンテーションは各自動画を作成し、ホノルルフェスティバルのブースで投影した

(4) 個別プレゼンテーション練習

早野先生とともに、全員がマンツーマンでプレゼンテーション練習を行った。

(5) ハワイ研修

- ① シャミナード大学見学
- ② Nagomi Foster Homes 見学
- ③ ホノルルフェスティバルでのブース展示

(6) 報告会

帰国後、推薦者の管理者等も交えた報告会をオンラインで開催した

(7) その他

在宅ケア会社 (Ho'okele Navigators, LLC) とのオンラインプレゼンテーション

2. ワークショップ

1) ワークショップの概要

ワークショップは渡航前に4回開催した。内容は、英語でのプレゼンテーションの練習やホノルルフェスティバルブース展示の企画、ハワイ研修の準備などを行った。研修生は、全国各地の訪問看護ステーションに勤務していることから、時間的・地理的な制約を考慮し、全4回とも18時から20時までZoomを活用したオンライン形式で開催した。以下に各回の概要を示す。

開催回	実施日	主な内容
第1回	2024/11/14	事業・ワークショップの概要説明／渡航に関する手続き／Slackの紹介／自己紹介
第2回	2024/12/23	日本語プレゼンテーション／英語プレゼンテーションに関する講義
第3回	2025/1/28	英語でのプレゼンテーションの練習／ブース展示企画
第4回	2025/2/20	出発前準備について／ハワイ研修で学びたいことの発表／ブース展示最終確認

2) ワークショップ内容

【第1回】

ワークショップの開始にあたり、当財団常務理事平原より、海外研修プロジェクトの開催に際し、「プレゼンテーションの方法を学び、海外や国内のさまざまな方々とコミュニケーションをとり、今後の地域での活躍に活かしてほしい」と、本プロジェクトの目標と意義を改めて説明した。

続いて、当財団事務局と株式会社JTBより、研修全体の流れやホノルルフェスティバルの概要、渡航に関する手続きについて説明を行った。また、情報共有や研修生間の交流に使用するツール(Slack)の利用方法についても紹介した。

研修生による自己紹介では、氏名・所属、訪問看護ステーションでの役割、なぜこのプロジェクトに申し込んだのか、プロジェクトを通して何を学びたいかなどについて語られ、多様な経験を持つ訪問看護師とのつながりが生まれる機会となった。

【第2回】

第2回目のワークショップでは、はじめに、研修生全員が日本語でプレゼンテーションを行った。発表は、事前課題として提示されていたテーマ(日本の訪問看護制度の概要、事業所概要、利用者の特徴、訪問看護の実際)に沿って、PowerPointを用いて行われた。研修生にとっては、自身および他の研修生のプレゼンテーションを通じて、プレゼンテーションを聞く対象者の特性に

応じた内容に修正を加えるとともに、日本の人口動態や制度の伝え方、画像の効果的な活用方法など、全体の構成を見直す機会となった。

続いて、早野先生より、英語によるプレゼンテーションに関する講義を実施した。講義では、研修生の発表内容を踏まえながら、アメリカにおける在宅ケア・訪問看護に関する基礎知識や、英文スライド作成のポイントなどについて、わかりやすくご教示いただいた。また、単なる翻訳ではなく、「声に出して何度も読み込み、伝えたいという想いで語ってほしい」といった視点が示された。

【第3回】

はじめに、当財団事務局より、改めて、本プログラムのねらいを示し、「英語でプレゼンテーションが完璧にできるというよりは、帰国後に地域の人を巻き込んだ企画を行うためのプレゼンテーション力と発信力を高めること」等の重要性について、研修生全員で再確認した。

次に、英語でのプレゼンテーションについて、ブレイクアウトルームで早野先生から個別指導があった。英語でのプレゼンテーションでは、特に発音や表現についてご助言いただき、「完璧な英語」よりも「伝わる英語」を意識することができるようになった。それと同時に、メインルームでは研修生主導で、ブース展示の内容についての話し合いを行った。話し合いでは、訪問看護師の疑似体験、研修生全員で同じスクラブを着る、折り紙で一緒に鶴・風船など作る等のアイデアが出された。

【第4回】

ワークショップの最終回となる第4回目では、出発に向けた事務手続きや持ち物、現地での行動スケジュールなどを確認するとともに、研修生一人ひとりがハワイ研修で学びたいことを発表・共有した。それぞれの発表では、「施設見学等を通して医療制度や文化等の違いを理解したい」など、制度・文化・看護観の違いに対する関心の高さがうかがえ、全員が目的意識を持って渡航に臨む姿勢が整った。また、ブース展示の最終確認では、展示内容や役割分担を明確にし、チームとしての一体感が高まった。

3) 研修生のワークショップでの学び

私は今回の研修は海外に日本の訪問看護をプレゼンテーションするという趣旨に惹かれて応募した。ワークショップでは3点の学びがあった。まず1つ目の学びは、日本の他の訪問看護ステーションのメンバーとディスカッションすることでお互いの強みと訪問看護の展開の多様さ感じることができたことである。例えば、栄養に特化したステーションや看護小規模多機能型居宅介護(看多機)やデイサービスを併設しているステーション、専門看護師や認定看護師が主導で活躍しているステーションなど様々な特徴があり、そこでそれぞれが目的をもって関わっていることがあった。次に、アメリカでの医療・介護の事例をスーパーバイザーの早野先生から伺うことで、日本の訪問看護がよりlong-term-careに特化しているということを理解することができた。その情報をもとに財団の資料を見返すことにより、少子高齢化社会に対する訪問看護での施策についての理解が深まり、例えば新卒教育や大規模ステーションの運営などの自身の現在の仕事の意味を考えることができ

た。最後に、管理者や経営者なども多く、そのメンバーで横のつながりでディスカッションすることにより、どのメンバーもリーダーシップやメンバーシップが図れるため、建設的な話し合いが出来ていると感じた。営利法人として活動しているステーションも多く、本来であれば近場で話し合えばよい内容も隔絶される現状を目の当たりにしているため、このような取り組みの中で点在しているステーションの知見を損得なしで共有していけることが非常に重要であると感じた。

以上のことから、同じ目的を持った仲間間でマクロな現状を学び合い、ミクロな視点でお互いの実践や取り組みについてシェアしてお互いの知見を上げていき、今後の連携に繋げていくということは訪問看護の発展に必要であると感じた。

(高田雄貴)

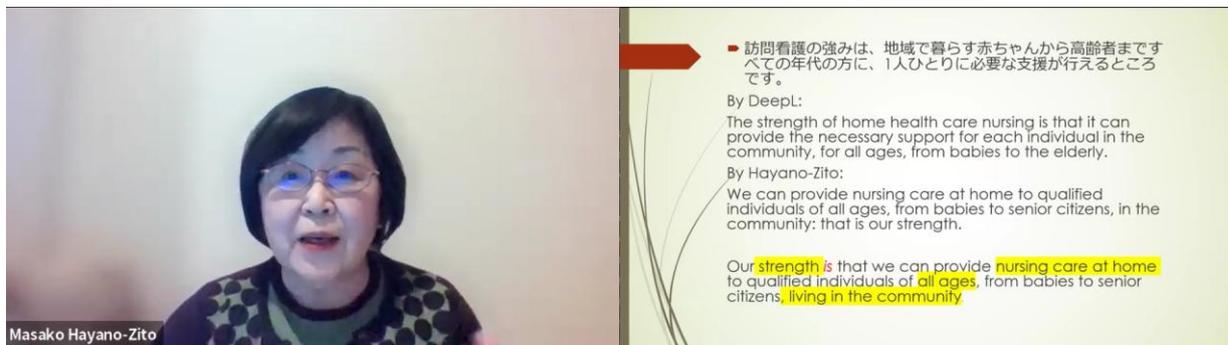
図表 1: ワークショップの様子



図表 2: 早野先生からのマンツーマンのプレゼンテーション指導



図表 3: 早野先生プレゼンテーション講義の様子



図表 4: ブース展示企画における話し合いの様子

3. ハワイ研修

1) 行程表

月日	地名	時間	行程
3/6(木)	東京発	18:00	空路ホノルルへ
	ホノルル着	9:00	空港より宿泊ホテルへ
	ホノルル	18:00	夕食
3/7(金)	ホノルル	10:00～12:00	シャミナード大学にてアメリカにおける 緩和ケアの講義
		午後	ホノルルフェスティバル展示準備 (ハワイコンベンションセンター)
		19:00	フレンドシップパーティ
3/8(土)	ホノルル	10:00～	<div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">Aグループ</div> 高齢者施設見学 (Nagomi Foster Homes) <div style="display: inline-block; background-color: #90c040; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">Bグループ</div> ホノルルフェスティバル ブース展示 (ハワイコンベンションセンター)
		～18:00	ホノルルフェスティバル ブース展示
3/9(日)	ホノルル	10:00～	<div style="display: inline-block; background-color: #90c040; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">Bグループ</div> 高齢者施設見学 (Nagomi Foster Homes) <div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 2px 5px; border-radius: 5px;">Aグループ</div> ホノルルフェスティバル ブース展示 (ハワイコンベンションセンター)
		～15:00	ホノルルフェスティバル ブース展示
		16:00～	パレード、花火
3/10(月)	ホノルル発	9:00 頃	ホテル発。空港へ。
3/11(火)	東京着	15:55	(日付変更線通過)

2) シャミナード大学

(1) 大学の概要

ハワイ州で唯一のカトリック大学であり、米国に3校あるマリアニスト系高等教育機関の1つ。美術と人文科学、科学と数学、行動科学、ビジネスとコミュニケーション、教育、看護の25を超える学部および大学院の学部・学科がある。オアフ島の国際都市ホノルルに位置し、ハワイ、米国本土、太平洋地域などから多様な学生が集まっている。看護学部は、地域社会の医療ニーズに応えるため、2010年に開設された。さらに、2022年には、既に学士号を取得している学生や単位を履修した学生を対象と

図表 5: シャミナード大学の前で Weiss 教授と参加者



した、5学期(通常は8学期)で修了可能な看護学士課程(Accelerated BSN Program)を開始している。看護学部は、地域社会との連携を重視しており、ハワイ州内の24以上の医療機関、地域医療センター、老人ホーム等の介護福祉施設や透析センターと提携し、学生に多様な臨床経験を提供している。MINORS(副専攻)に Palliative Care があるのはハワイ州でこの大学だけである。

(2) Weiss 先生経歴

Daniel J. Weiss 教授 DNP, RN, CHPN

Adjunct Faculty & Palliative Care Specialist School of Nursing & Health Professions

Chaminade University of Honolulu

Dan Weiss 教授は、長年、米国のホスピス・緩和ケアの看護師、看護教育者として活躍されている。Weiss 教授は、カリフォルニア州サンディエゴ地域のシャープ・ホスピス・緩和ケアで緩和ケア・ホスピス看護師として24年の臨床経験を持つ。2015年より、カリフォルニア州立大学サンマルコス校で7年間、シャミナード大学ホノルル校で3年間、看

護学部生への緩和ケア看護と End of Life Nursing Education Consortium (ELNEC) カリキュラム講師、非常勤看護教員および緩和ケア・コーディネーターを務める。シャミナード大学では緩和ケア看護教育を主管し、ELNEC の Undergraduate/New Graduate オンラインコースを内科外科看護科目に取り入れ、ELNEC コースの講義、ELNEC Graduate オンラインコースを DNP プログラム(Doctor of Nursing Practice: 高度実践看護師養成のための博士課程)に導入した。また、シャミナード大学において緩和ケアを副専攻できる課程を中心となって設立した。さらに、緩和ケア新課程における 3 単位の 5 選択科目(4 講義科目と 1 臨床科目)の主任講師と科目コーディネーターも務めている。また、シャミナード大学でオンラインで教鞭をとる一方、2025 年 7 月より、サンディエゴ郡北部にあるエリザベス・ホスピスにて看護師ケースマネージャーにも就任される。S

(3) 講義について

Weiss 教授からの講義では、緩和ケアとエンド・オブ・ライフケアをテーマに、緩和ケアの定義、目的、メリット、ガイドライン、ハワイにおける緩和ケアの実際、在宅ケアを含めたホスピスケア、メディケアにおけるホスピスケア、緩和ケアとホスピスケアの比較、アドバンス・ケア・プランニング、事前の意思表示について、事前指示書(アドバンス・ヘルスケア・ディレクティブ)と Provider

図表 6: Daniel J. Weiss 教授の講義の様子



Orders for Life-Sustaining Treatment (POLST)(延命治療に関する医師指示書)について講義を頂いた。

図表 7: シャミナード大学 Weiss 教授講義資料(一部抜粋)

●End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC) FACT SHEET

<https://www.aacnnursing.org/Portals/0/PDFs/ELNEC/ELNEC-Fact-Sheet.pdf>

(4) シャミナード大学見学

シミュレーションセンターにて、専属のエンジニアとともに実際の授業でのシミュレーション演習の様子について説明をうけ、シミュレーションを使用した演習について体験できた。

図表 8: シャミナード大学、シミュレーションセンター見学の様子



(5) シャミナード大学での研修生の学び

校内実習について様々な現場のシミュレーションを実際の臨床の場面に即した、緊張感の中で行き、振り返ることで実践力が身に付きやすく、自信が持てる学習内容だと思った。緊急の救命に立ち会うことはあるが、急な出産に立ち会う現場を想像しなかったのがなかったので、医療従事者として様々な場面を事前にシミュレーションをしておくことで、多様な状況に安全に対応できるようになり日頃からの学びとして重要だと感じた。

ハワイで低所得の方の割合が多いことに驚いたが、低所得の方でもほとんどの人が在宅でホスピスケアを受けられる環境が素晴らしいと感じた。在宅ケアチームの中でもボランティアの助けが大きい存在なのではと思う。ボランティアを行うという事の考え方が、宗教や文化的な考え方にに基づき、日本とは全く違うのであると感じた。

宗教的な側面、文化的な側面、チャプレンの取り組みなど精神的な面でケアをして行くことが日本と比べて多いと感じた。その中でも遺族に対し、ビリーブメントケアを一年間行うことに感銘を受けた。利用者さんが亡くなった後の関りについて所属事業所では、ご本人様とご家族に挨拶ができれば伺い、挨拶できない場合もある。毎日訪問をしていた利用者さんのご自宅に、利用者さんが亡くなった次の日から行かなくなるという環境に違和感があり、いつまでもご家族の事を気にかけている状態もあった。日々の訪問看護では、日常的に家族の状態も考え関わり方やケアを捉えていくのにも関わらず、死を迎えた後の一番辛いご家族の状況に寄り添っていなかったと思う。ケアとして、グリーフケアが一般的になるよう学んでいきたい。「あなたにとって一番大切にしている事」を確認するのは重要だと思った。

(ロメーロ 麻衣)

大学講義ではアメリカでのアドバンスケアプランニングについて学んだ。アメリカでは、ACPは広く普及しており、制度化されている。多くの医療機関で、患者との話し合いが推奨され、患者が自分の希望を文書で残すことが一般的である。例えば、「リビングウィル」や「代理意思決定」の法律があり、患者が自分の意思を事前に記録しておくことができる仕組みがあることを学んだ。また、「Orders for Life-Sustaining Treatment (POLST)」や「アドバンス・ダイレクティブ (Advance Directive)」と呼ばれる文書も広く利用されており、患者の治療希望を記録し、医師や家族と共有できるようになっていた。この文書は高齢者だけでなく若年者も多く記載していた。書き換えることは可能で、医療機関に登録し医療従事者と共有できるようになっていた。日本では、意思決定に対して、まだ文化的背景や医療現場での習慣が影響して浸透していない部分があると感じた。

(井手 佳菜)

講義の内容は訪問看護が大切にしている緩和ケアの概念と大きく変わらないと感じた。日本では緩和ケアに関する学会や研修(ELNEC など)において、参加者は病院関係者が多く、緩和ケアの考え方が在宅と異なる部分が大いと感じている。痛みを取ることは大前提だがその考え方が薬剤中心でアプローチの仕方にも制限があり、緩和ケアの考え方にも偏りがあると感じている。在宅では家の中という環境や人とのつながりや社会とのつながり、本人の過ごしたい日々により添うことができるため緩和ケアのアプローチも様々である。日本では在宅と病院における緩和ケアの目標の違いに対して、もどかしさがあったが、講義の内容からアメリカではそうでないとわかった。日本の緩和ケアの多くが病院を中心に考えられていることに課題を感じたが、在宅からも緩和ケアについて発信し続け、質の高い緩和ケアを常に目指していくとともに、今後も海外の緩和ケアに触れる機会を持ちたいと思う。

(河西 真理子)

講義の中で最も印象的だったのは ACP が日本よりも日常的に実施されており、自分の意思を記した書類は法的に有効になるということであった。ACP は、重症な病気を抱えていなくても平常時から取り組むことが重要であるが、日本の臨床では、最期を意識する状態や、今後自分の意思表示ができなくなることが予想される場合に医療者の勧めで開始するものであった。実際に ACP の実施をする際には、すでに意思表示が曖昧になっていることや、ACP の話をする事自体がナイーブなものであり、誰がいつ開始するかが問題になるという状況になることがある。また、以前経験した事例として、神経難病の方について、意思表示ができる段階で、食事ができなくなった場合でも胃ろう造設はしたくないと ACP を実施し、書類に記載していた。経口摂取ができなくなり、意思表示が困難となった際に、ACP の書類には胃ろう造設はしたくないと表記されていたが、家族がまだ生きてほしいとの思いで最終的には胃ろうが造設されたということがあった。入院されたため、その後の経過は不明だが、自分の意思表示とは反対の結果になったことに疑問を感じていた。このケースのように、本人より家族の意思が最終的に優先されるという場面に度々遭遇した。講義の中では自分の意思と違う選択にならないように、家族間で何度も相談して書類を作成し、ACP の書類が法的に有効なものとして扱われるということであった。法的にも確実に本人の意思が守られていることに衝撃を受けた。

また生命維持のための医師、ナースプラクティショナー(NP)の指示書である POLST の存在も初めて知った。POLST とは、予後 1 年ほどの人に対して作成され、3 段階に分けて緊急時に希望する治療や処置に対する意思を予め表示しておくものであった。POLST があれば、都度主治医に確認することなく、スムーズに対応ができる。個人の意思が重要というアメリカの文化を実感するとともに、個人の人生が思い通りに進められるように様々な書類を準備しておく必要があることを学んだ。

(荒木 美穂)

シミュレーション研修室を見学して、訪問看護師の教育に取り入れる必要を感じた。なぜなら、訪問看護の経験のない看護師は、自宅でどのように技術を活かしたり、声掛けをしたいのかということに不安感を抱くことが多いと感じているように見えるからだ。特に ACP の場面などは、声掛けや安心できる関わりなど前もって練習できていると、質の高い支援ができるだけでなく、関わるスタッフの安心感にもつながると感じた。

また、経験の違いによるフィジカルアセスメントの偏りをなくすためにも、モデルやシミュレーションの活用は重要と考えた。モデル人形などを購入するには、金銭的に困難であるが、東京都福祉保健局の取り組みである在宅療養訪問看護シミュレーション研修事業のような補助があると知った。新任看護師が長く安心して活躍できるよう、それら事業を活用することも視野に入れていきたい。

緩和ケアの講義において、ホスピスケアは余命半年の方は保険適応で支援ができ、支援チームが病院や施設、自宅に訪問して支援をするということを知りました。日本では、ホスピスケアでは、訪問看護ステーションの看護師が訪問して支援を行う。日本の訪問看護のメリットとしては、顔の知った関係の看護師が支援できるということだが、デメリットとしては、その看護師や訪問看護ステーションの力量で受けられる支援に差が生まれてしまうことだと感じている。そのため、ホスピスケアの質の統一が重要で、自訪問看護ステーションでは ELNEC-J の受講を進めていこうと考えている。

(根岸 由依)

今回講義を受けて、アメリカと日本の保険制度の違い・緩和ケア・ホスピスの在り方などが理解できた。講義の中で、緩和ケアを受けると、再入院率を 48% 下げ、1日のコストは 28% 下がり、緊急ケアは 35% 減ると聞いた。最期を迎える人に対し、寄り添うことが、心の支えに大きく関わることを改めて実感し、寄り添うことが重要であることは世界共通であると再認識した。メディケア、メディケイド(低所得者対象保険)でもホスピスケアを受けることができる。ハワイでも、最期を安楽・安心して迎える環境の提供がされていると感じた。また、法的効力のあるアドバンス・ケア・プランニングに伴い、療養者の価値観の提示と「あなたにとって重要なことがなんですか」と問うことが大切であることは日本のケアにおいても忘れてはいけないと思った。また、ホスピスケアチームが、「チーム」として動くことで重要であり、アメリカの緩和医療を支えていると強く感じた。

(小口 妃小江)

見学では、日本の看護大学との教育における大きな違いが理解できた。臨床に近い学習としてシミュレーションセンターの見学をした時に、日本の医師・看護師が卒後に受けている教育を看護学生が学んでいるということを実感した。また、教育に費やすリソースも豊富で、シミュレーター専任のインストラクターを準備し高度なトレーニングを実践していることが理解できた。講義では、チャレンジャーが精神的なケアも担っており、日本にはない文化で新鮮であった。宗教的な背景もケアをする

上では配慮する必要がある、日本にはそういった部分の配慮にはまだまだ課題があると感じた。メディケアという低所得層を守るシステムについても理解できた。医療制度の受給対象であれば、病院と在宅はシームレスにつながっていると感じた。シャミナード大学での体験は看護師の基礎教育のレベルの高さと国外の医療制度の違いから今後の日本の看護教育と医療制度のあり方をどのように考えた方が良いかを学ぶことができた。

(朝倉 之基)

日本と比べて、大学での実習やシミュレーションなど学習・教育環境が臨床に出てもすぐに対応でき、働けるように徹底して考えられており驚いた。日本の学生も、同様の環境で勉強が出来たなら、入職後の研修や臨床に対する心理的な負担が減るのではと思った。

講義では緩和ケア等のハワイでの取り組みを学び、意思表示のシステムについて、わかりやすく統一している印象を受けました。当事業所でもターミナルケアにおいて適切な時期をみてACPをしているが、事前に終末期の意思表示の内容について確認はするものの、医師とは情報を共有するだけで、本人とキーパーソン一人のサインをもらうに留まっている。意思確認の項目も最低限であり、改善の余地があると思った。終末期や緩和ケアにおいて、スピリチュアルケアと言葉では何度も学ぶことがあったが、チャプレンを今回初めて知り、実際にチャプレンがどのようにスピリチュアルケアや精神的ケアをしているのか深く学びたいと思った。講義で先生が「あなたにとって重要なことはなんですか」という質問が大切と言われていたが、改めて訪問看護において自分の考えによる正しさや価値観を押し付けていないだろうかと考えさせられた。

(富田 のりこ)

日本のACPにおいて本人の意思確認は行うが、日本の文化・風土の傾向として家族などの意見が優先されがちだと感じる。先生の講義で、ACPの文書に法的な効力があることやPOLSTがあれば、緊急時でも救助者に希望通りに処置してもらえると聞いて、日本では本人の意思が最優先されていないことが多いもどかしさを感じた。射水市では「いのちのバトン」という救急医療情報キットを利用している人もいるが、それはあくまでも持病や既往歴、内服薬の情報提供のみである。迅速で適切な処置のためのツールも大切だが、本人の意思を尊重した暮らしを実現するためにはどうしたらよいか、国民性や制度の違いもあると思うが、もう少し日本でも本当の意味でのACPが尊重され広まってほしい。自訪問看護ステーションはがん終末期の利用者が多いため、ACPがさらに身近なものとなり、実施する機会を逃さないように関わっていきたい。また、チャプレンという聖職者の存在を初めて知った。信仰のある人にとっては、病気の時や死に直面した時に聖職者が傾聴し教を説いてくれたらどんなに救われるだろうと想像する。日本では、宗教の話をする事自体がタブーだと感じることもある。宗教でもそうでなくても心の内をさらけ出し、思いを表出できる相手や場があれば良いと思う。学内の実習室を見学させてもらい、シミュレーター人形など実習機材が

たくさん揃えてあった。日本でも学生同士で患者役と看護師役に分かれてコミュニケーションを学んだり、実際に病院で看護師の役割について学んだりするが、就職後すぐに一人前の看護師として働くのは難しい。各病院に沿った研修を受けて、時間をかけて自立している。シャミナード大学の様に安全な環境で難しい実習ができることは学生にとって大きな学びに繋がり、教育レベルの高さを感じた。

(林 聖奈)

3) Nagomi Foster Home

Nagomi Foster Home

URL:<https://www.nagomi-fosterhomes.org/facilities>

(1) 施設の概要

Nagomi Foster Home は、ホスピス・緩和ケア認定看護師(CHPN)である三浦佳代子さんが運営するホスピス患者のための非営利団体の介護ホーム(Foster Home :寄付により運営を行う介護福祉施設)になる。現在、三浦さんは、視察させて頂いたホームを含め、3か所を運営されている。

Nagomi Foster Home はミッションとして、「最期の日々を心穏やかに、安心して過ごしていただくために、介護のみならず、心のケアも重視し、自宅で過ごすかのように、患者さんが自分らしい生活を送れるよう全力でサポートします」を掲げている。

今回の視察先は、三浦さんがホスピスケアを実践される中で、患者さんが最後の日々を安心して迎えられる施設の少ない現実につづき、「家族がいない、あるいは自宅で看取ることができない終末期患者に安住の地」として、自宅に併設する形で Foster Home を設立されたものである。Foster Home という形態であり、寄付で運営され、利用者の費用は無償で提供している。この施設では、疼痛の緩和や精神的、スピリチュアルな支援などを含めた終末期の緩和ケアの提供を専門としている。言語は、日本語・英語の両方に対応可能で、入居者は日本人、日系人を対象としている。施設は全体で、3～5人まで入居が可能で、室内はバリアフリーとなっている。個室、2人部屋があり、各部屋にベッドやポータブルトイレ、クローゼットなどの家具が付いている。他、食事を摂るためのダイニング、利用者の交流のためのリビングがある。

日中はボランティア、ナースエイド(看護助手)等が食事や清潔ケア、排泄などの入居者への介護支援を行っている。三浦さん自身は、外部の会社で在宅ホスピスケア(終末期の方を対象とした訪問看護)を提供し、そこで得た報酬もこの施設の運営費となっている。

建物が高台にあることから、見晴らしがよく、広いベランダからは遠く先に広がる海、右奥にはダイヤモンドヘッドまで見える。ベランダには、ソファやブランコがあり、談話できるスペースになっている。ベランダからの眺望やベランダに出て、外の空気や風を感じられることも入居者の心を癒す緩和ケアの一つとなっている。

図表 9: Nagomi Foster Home 見学の様子



(2) 視察の概要

今回は2つのグループにわかれ、2日間にわけて視察した。最初に施設の説明を受け、研修生が自訪問看護ステーションについての紹介と自己紹介を行い、三浦さんに質問する形で、ディスカッション、意見交換を行った。施設での緩和ケアの実践だけではなく、三浦さん自身が、在宅で療養している終末期の方を訪問し、ホスピスケアを実践されていることから、施設に関するだけでなく、終末期ケアについて幅広く意見交換することができた。

図表 10: Nagomi Foster Home

(3) ディスカッションの主なテーマ

- ・アメリカの保険制度と課題
- ・ハワイでの看取りの実際
- ・尊厳死・安楽死について
- ・看護師のメンタルケアについて
- ・小児の終末期における病名及び予後の告知について
- ・在宅医療における医師と看護師の連携



(4) 視察での学び

Aグループ (3月8日に訪問)

ハワイでは住民同士のつながりや地域コミュニティの絆が強い。また多様な人々が住んでおり文化や宗教的な背景もさまざまである。こうした多分化共生の環境では他者への支援や奉仕活動が自然な行動として根付いており、ボランティア活動が盛んである。特に看護学生は病院などで休日にナースエイドとしてボランティアを行うことが多い。

ハワイは観光地として非常に人気があり、土地が限られているため、住宅価格や家賃が非常に高い。これにより、低所得者層や一部の中流階級の人々が住む場所を確保するのが難しく、結果としてホームレスが増えている。また精神的な健康問題を抱えても入院先が少なかったり日本と比べて平均在院日数短いアメリカでは早期退院を進められさらに精神状態が悪化し働くことが困難になることもホームレスが多い原因である。

Nagomi Foster Home は日本人スタッフが運営している非営利団体である。施設入所の対象者はターミナル期にある患者でホスピス病院に入院できないホームレスである。運営費用は寄付で賄っており患者負担はない。ホーム内は一般的な一軒家で、キッチンやリビングダイニング、居室があり、病院のような医療物品は見当たらなかった。病院ではなく、自宅として場所を提供しているの

がよくわかった。最期の療養場所として、景色のいい立地の一軒家で介護や医療を受けながら過ごすことができる。身寄りのない場合が多いホームレスにとって最善の場所である。 (井手佳菜)

なごみホームでは実際に自宅を活用して施設的な役割を果たしている現場を見学することができた。医療や看護・介護という概念よりもそこに住む人たちの生活をどうするかというところに力を入れているのだろうと感じた。今回見学させていただいたなごみホームではまさに大きな自宅でそこで生活する利用者がいてという環境であったので日本でいうグループホームのような印象だった。

ここで一番驚いたことは、身寄りのない日本人が亡くなった後に対応ができない状況であるということであった。日本でもそういったケースは見られるが、行政が最終的には対応するというケースの経験がほとんどだったのでハワイでいうと領事館がそれにあたるのか相談してみたら解決できるかもしれないということも共有できた。アメリカのナースの賃金はとても高いが、看護を受けるにはそれなりの収入がないと受けられないという現象が起きているそうである。看護の地位が高まると賃金が上がりサービスが行き届かなくなる。この構造が日本の看護師の低賃金につながっていることだろうということが予想できた。 (朝倉之基)

アメリカではボランティア活動が浸透しており、自宅での傾聴ボランティアもあると聞きました。今の日本ではボランティアや寄付をする習慣が少なく、自分は自分、人は人と個人主義で自分さえ良ければいいという空気を感じた。様々な社会問題に目を背けずに課題に取り組んでいくことは、自分の生活、仕事や心に余裕がなければできないことではないと思われる。しかし、自分の余裕のある時にできる小さいことでも社会や地域に貢献できる活動ができれば、住みやすい地域が作っていくことができる。私は三保の海岸清掃ボランティアや駅周辺の清掃ボランティアに参加したことは何度もあるが、参加するための早起きや時間を作ったの準備などは大変ですが、参加した後の綺麗になった海岸や道路を見ると気持ちよくなり自己効力感も感じることができる。自分にできることに限りはありますが、できる範囲で関わっていく方へ困難な状況にあれば流さず解決方法を模索していけるようにしていきたい。そして、社会福祉や制度においては、本当に必要な人に必要な支援が適切に受けられるようにしていく、ただそれだけを実現することの難しさも感じた。 (富田のり子)

精神疾患がベースにあり、受診できないなどで適切な治療を受けることができず、薬物を使用することになりホームレスになるという状況に驚いた。様々な問題を抱え最終的に薬物に頼るしかないのも問題だが、薬物が簡単に手に入る状況は、さらに問題であると感じた。低所得であろうホームレスの方たちが、薬物を購入し使用し続けられる環境があるのだと思う。

海外での日本人の療養状況について、実際の現場の状況を知ることができとても新鮮であった。近年、日本人が世界各地への移住の話を聞くことが多いが、それぞれの地域で異なった問題があると思う。移住し言語が十分に理解できなかったり、文化に溶け込めなかったりなどで孤立し、助けを求められる人が近くにいない状況は、様々な国で起こっているのだと思う。医療従事者として、同じ立場になった場合、困っている日本人を支えることができるのかと考えた。異国でサポートできる環境を作り上げた、行動力と考え方に感銘を受けた。施設が高額で入れないのは、日本でも家庭

の状況ではあることだが、ほとんどの人が高額すぎて入れないのは驚いた。Nagomi Foster Home の運営について、寄付の額が大きいと知り、ここでもアメリカのボランティア精神、チャリティの精神の違いを感じた。

(ロメーロ麻衣)

Bグループ(3月9日に訪問)

米国では常にお金の問題が付きまとい、治療を諦めなければいけない人が多いと知った。高額な治療費が原因で諦めなければならぬ命がどれだけあるのか。最近、日本では高額療養費の引き上げが問題となっている。せつかく日本の皆保険制度は当たり前ではなく、安心して治療やケアを受けることが出来る素晴らしい仕組みであることを感じる事が出来たのに、引き上げが決まれば日本も米国のようになりかねない。これからも助かる命が平等であり、高額な治療費で治療を諦めることがない世界であってほしい。

また、看護師が人工呼吸器を外すことが出来るという話を聞いた。仕事だと思ってもなかなか割り切れることではない。でも、本人が望まない治療の場合や途中で意思が変わることだってある。人工呼吸器が繋がれている姿を見ている家族にとっては、継続していることの方が辛いこともあるだろう。始めてしまったら終わることは難しいことであるため、安易に判断をしないよう医療者側からの情報提供がきちんとなされるべきだ。

自分の心のケアについて尋ねた時に「カウンセリングが良かった。悲しくても大丈夫という気持ちを持つことが出来る。」と言われた。悲しみを引きずってはいけなかったと思っていたが、ふっと心が楽になった。自分の心身も大切にしつつ、真摯に向き合っていきたい。

(林 聖奈)

施設経営は簡単ではなくホスピス看護師として出稼ぎに行くことで施設経営を支えている。それほどアメリカは看護師の地位が高くサラリーが良いこと、ケアギバーはアメリカ人でなくアジア人を雇用しており真面目でよく働いてくれることなど伺い、日本人が営むナーシングホームの魅力にもつながっていると感じた。

現場の話では利用者が自分で自殺を選択できるように薬剤を持っている話に驚いた。その選択までも本人の意思が尊重されており、実際に自殺を選択する利用者が多くいる中でその薬剤を持っていることにより一種の安心感と歯止めにつながっている方もいるということには感心するばかりでした。そして利用者が自殺する場面等を目の当たりにするナースがカウンセリングを受けられる体制も整っており、感情疲労が常のこの職種を継続するうえでとても大事な体制であると思った。

また自分が知りたかった子どもの意思決定支援について、アメリカでは年齢を境に本人に告知すると聞いたが実際に質問したところ、多くが母親の意向が尊重されるため、そこには本人の意思を尊重するスタンスはないとのことであった。10代の敏感な時期に自分の体調と周囲の大人の様子や自分が感じる不安などが入り混じり、亡くなっていくことに葛藤を抱える医師や支援者は多く、答えは出ないながらも自分の中でも葛藤が残った。

(河西真理子)

「訪問看護」や「ホスピス」という言葉でも国が違えば内容や概念が違うものであるということに気づいた。なごみホームは現地では Foster Home という分類に分けられており、アメリカでの低所得

者向けの保険であるメディケイドを受給する人やホームレスに対して住む場所を提供しているというものだった。私は、なごみホームは介護施設、Nursing Home と思っていたのだが アメリカでは Nursing Home はまた別であるということがわかった。Foster Home は日本にはない分類の施設であり寄附がメインで成り立っているようだった。ハワイの滞在先の周りでもホームレスがたくさんおり、アメリカでの Foster Home の必要性を感じる事ができた。

“ナビアン ホスピス ハワイ”というがんの利用者に対して看護師が訪問サービスを行っているそうだが、日本の訪問看護に近いのかなと感じた。そこでは利用者に対する看取りケアやメンタルケアも含むケア全般が行われており、場合によっては ALS の方の尊厳死のサポートも行うとのことだった。同じ言葉や概念でもその内容が全く違っており調査や話をしていく時には、まずその概念から合わせていく、確認していく作業が必要だなと強く感じる事ができ、今後文化の違うフィールドで活動するための良い学びになった。

(荒木美穂)

Nagomi Foster Home では、制度の枠にとらわれずに、目の前の人に自分ができていることを考えていくことの大切さを学んだ。アメリカでは民間の保険に入ることでできない低所得の方や高齢者をメディケイドやメディケアが支えているが、これらの保険を使用するには数か月単位での時間がかかることや、体調の悪い方はそれを待つ時間的猶予がない方がいると学んだ。保険の結果が出るまでの間、その人達を支えるために何か方法がないかと考えた結果、保険に頼らずに寄付を使用して運営をしようと思ったという発言に、「必要な支援を必要な人に届けるためには必ずしも制度に添わなくてもいいのかもしれない」ということに気が付いた。日本は医療保険制度や介護保険制度が整っているため、アメリカほど医療や介護に困窮している方は多くないのかもしれませんが、しかし、制度の隙間に入ってしまうような支援者には、制度がないから支えられないのではなく、今ある制度を工夫して活用できないか検討してみたり、自ら支援制度を作り出したりして、目の前の困っている人を支えられるような前進力のある考え方が必要なのかもしれないと思った。

(根岸由依)

最後を迎えるにふさわしい景色があった。日常がゆっくり流れていた。少人数であり個々のへ対応ができていると感じた。しかし、運営側としては、自らも働き施設費用にしているなど金銭的な問題もあると思う反面、寄付金があるなどアメリカらしさも目の当たりにした。

安楽死について話題に上がった。特にALSの方で安楽死を選択する現状を知った。現在、私もまさに ALS の方に多く関わっており、最後選択へのジレンマを抱いている。それは、本人の気持ちも大切しつつも、意識がある中まだ動ける中での家族の心の整理・死を選択する気持ちの整理には、やはり、看護師のみならず、ホスピスチーム・ボランティアの方々のサポート体制が整っているからこそ、できることだと思った。そこには勿論、金銭的負担が少ない日本の保険制度が大きく関わっていることも実感した。シャミナード大学での講義にもあったように【アドバンス・ケア・プランニング】は日本でも進められており、私自身も実践しているものの、決断の難しさ感じている。やはり、最後は精神的ケアが重要になるが、ゆったりとした環境・傾聴に専念できる環境の在り方など、環境調整も必要があると感じた。

(小口妃小江)

4) ホノルルフェスティバル

(1) ホノルルフェスティバル概要

ホノルルフェスティバルとは、日本各地のお祭りをはじめ文化・芸能並びに武道・スポーツなど様々な交流を通じて、日本とハワイ、ひいては環太平洋諸国との親善の輪をより大きく幾重にも築き上げ、世界平和に少しでも貢献することを目的とし、1995年から開催されているハワイ最大級の文化交流イベント。日本・ハワイを始めとして、アメリカ・メキシコ・イタリア・オーストラリア・韓国・台湾・ニュージーランド、ブラジルなどから約 4,000 名が参加する。

(2) ホノルルフェスティバル日程表

月日	第 29 回ホノルルフェスティバル 主なイベント予定スケジュール	
3 月 7 日 (金)	09:00 - 13:00 教育・交流プログラム	オアフ島内の小中高校生を対象に、ホノルル フェスティバルの展示物の見学や、フェスティバルの参加者達との交流をはかっています。これは生徒達にとって、異文化とふれあえる素晴らしいチャンスです。フェスティバルに出演するアーティストやパフォーマー達と実際に会って興味深い実演を見たり、話を聞いたりします。
	12:00 - 13:30 ハワイ州知事主催歓迎昼食会	
	19:00 - 20:30 フレンドシップ・パーティー	「フレンドシップ・パーティー」は、ハワイ及び世界各国の人々の友好と国際親善を目的としています。踊りや歌のエンターテイメント、そして食を通じて、多様な文化に触れるひとときをお楽しみください。地元で人気のレストランの味を一同に楽しめるといっても大きな魅力のひとつです。 フレンドシップ・パーティー開催により集まる基金は、地元の学生達に国際的な理解と意識を高めるための機会や質の高い教育プログラムを提供することに役立てられています。

3月 8日 (土)	10:00 - 18:00 ステージパフォーマンス	日本、ハワイを始めとする環太平洋地域からの参加グループによる伝統芸能やパフォーマンスをお楽しみいただけます。
	10:00 - 18:00 展示・実演	各種展示・実演・ワークショップの他、ハワイ地元の物産販売、部さん転倒のクラフトフェアを開催します。
3月 9日 (日)	08:00 - シスターイベント ホノルル・レインボー駅伝 (EKIDEN) 2025	ハワイの市民運動会“ホノルル・レインボー駅伝(EKIDEN)”が今年も開催されます！ 雄大なダイヤモンドヘッドを見渡すカピオラニ公園をスタートし、ダイヤモンドヘッドロードを駆け上がり海が臨めるルックアウト(展望台)付近で折り返す1周5Kmのコース設定は、ハワイの大自然を身体いっぱいを感じる事ができる人気のコースです。
	10:00 - 15:00 ステージパフォーマンス	土曜日と同じ
	10:00 - 15:00 展示・実演	土曜日と同じ
	16:00 - 20:00 グランドパレード	ホノルル・フェスティバルのパレードには、ハワイ、日本、そして環太平洋の国々からの参加があります。ハワイで様々な国の伝統的なパフォーマンスやお祭りを見ることができるまたとない機会です。
	20:30 - 20:45 長岡花火	新潟県長岡市の平和を願う花火が、今年もまたワイキキの空を彩ります。

図表 11: ホノルルフェスティバル会場のハワイコンベンションセンター



(3) ホノルルフェスティバルブース展示の様子

① 折り紙、塗り絵、ヨーヨー釣りのワークショップ

折り紙や塗り絵を教えるワークショップを行った。

図表 12: 子供たちや日系の方などが昔を懐かしんで、参加して下さった。



図表 13: 鶴や箱、手裏剣など折り紙を楽しまれた。



図表 14: ヨーヨー釣りについても研修生がヨーヨー釣りの方法を英語で説明をし、子供たちを中心に楽しまれていた。



② プレゼンテーション・ポスター展示

※研修生のプレゼンテーション資料は Appendix(p46)参照

足を止めて興味を持って話しかけてくださったり、プレゼンテーションを見てくれる方も多かった。また、現地の看護師をはじめとした医療関係者や高齢者がポスター展示に興味をもって話しかけてくれた。



(4) ホノルルフェスティバルでの学び

訪問看護について興味がある方がとても多く、ブース展示場を訪問看護の申し込み場と思い、話をして下さる方が何人も訪れたことから訪問看護の需要が多いことが分かった。訪問看護を利用したい方が多くいらっしゃるのに、訪問看護の利用方法が分からない状況なのであると思った。

日本人に対しアメリカで看護師を目指す人を募集していたり、またアメリカでの看護師試験についてハワイとニューヨークでは英語の試験がないことから、得にアメリカの移住者が多い地域での看護師不足の状況は深刻であると感じた。自宅に介護用のリフトを設置しなければ訪問看護を提供しないという話を交流の中で聞き、介護負担軽減方法とアメリカでの看護師の立場の強さが分かった。

「なぜハワイで訪問看護を提供しないのにここで訪問看護を紹介しているのか」という交流した方からの質問を受け、日本の訪問看護をホノルルフェスティバルのブースで展示する意義を考えさ

せられた。今回ブース展示を通し、アメリカの訪問看護の需給状況や様々な年代・職業の方と交流ができ、私たちにとっては大きな利点を得られた。しかし、日本の訪問看護に興味を持って下さった方々に、日本の訪問看護については紹介するのみであったので、日本の訪問看護で行っている事を、現地の人々の為になるように考え、実際にブースで提供するなど訪れた方の利益を考えてブース展示をできたらなお良かったと思った。

(ロメーロ 麻衣)

2日間ブース展示を行った。私たちは日本の訪問看護を広める目的として、プレゼンテーション動画を上映したり、日本とアメリカの医療制度の違いのポスターを提示した。展示中に立ち寄ってくださった方から、ハワイの訪問看護についてさまざまな情報を得ることができた。ハワイでも訪問看護サービスは提供されており、特に高齢者や慢性疾患を持つ方々のために利用されることが多い。ハワイでは訪問看護を提供する機関やサービスも多岐にわたり、州の医療保険プログラム(Medicaid)や民間保険でカバーされることが一般的である。しかし訪問看護ステーションの数は日本と比べると少ない傾向にある。これはハワイの医療制度が主にホームドクター制度を中心に構築されており、住民が主治医を選択し、必要な場合は医師が患者の自宅を訪問する形態として患者のニーズに応じた医療サービスが提供されているからである。アメリカの看護師の業務は専門的に分化しており、看護師(Registered Nurse(RN))は患者の診察、医師からの指示受け、処置や治療、薬の投与などを行い、一方認定看護助手(Certified Nursing Assistant(CNA))が患者の身の回りの世話を担当していた。

(井手 佳菜)

予想を超えて、多くの日系人や日本人の医療関係者が立ち寄ってくれて、様々な立場の方から話を聴くことができた。看護師、家族が看護師の方、難病闘病中の方、起業家の方、どの方も訪問看護に対する認識は違い、同じ国に住んでいてもそれぞれの立場から見えている景色は違うように感じた。また看護師の地位が高くなり、一方で、貧困層は看護ケアを受けづらくなった状況を聞き、専門性が高く医師と同等の地位ばかりに着目していたが、さらに医療における貧富の差が加速してしまっていることに驚いた。日本人の看護師就職事情では、ハワイの医療機関は初めからレベルの高い看護師を求めており、手元で育てていこうという認識がなく、日本での経験は計上されず、アメリカでの実務経験が評価されるとのことだった。反面、日本人の看護師がハワイで働くなら個人的に雇いたいと希望される日系人が複数おり、日本の看護ケアの丁寧さ、質が求められている状況も感じることができた。実際に見たことではなかったが、ハワイで暮らす人々が感じる医療や日本の看護に対する認識、ニーズを直接聴く機会となった。日本の看護の素晴らしさにアメリカのシステムの良いところを追加したら、素晴らしい看護の発展につながるのではないかと思った。

(河西 真理子)

国を超えても看護師をはじめとする医療職のつながりがとても強いことを実感した。看護師はもちろん医療系の学生や医師など様々な方がブースに興味を持ってくださりたくさん話すことができた。また一般の方も看護師だからということで話しかけてくださり、現状を教えてくださいと多かったです。特に印象に残っているのはアメリカで訪問看護師として働いていたという男性看護師の話だった。彼は過去にアメリカで一番忙しいという病院で働いており、給料は良かったが疲弊してしま

もっと患者のケアを大事にしたい、自分の生活を大事にしたいと思い訪問看護に転職した。しかし訪問看護は一人の利用者に対して10分や15分の時間でバイタルサインを測定したり内服してもらうぐらいで、1日何十人担当したり、もしくは時給制で、1人の高齢者や障害者のケアに長時間入ることがあったと話していた。日本とアメリカの保険制度の違いや訪問看護の違いについて説明すると非常に驚いており、看護師や利用者にとっても良いものだと言っていた。国が違えば利用制度や保険制度も違い、その上に成り立っている医療サービスや看護師の働き方も全く異なるということを学ぶことができた。また、アメリカでは看護師がストライキを起こして労働環境の改善を訴えたりすることも多く、主張や職位の強さに驚いた。その他にも色々な看護師や一般の方と話すことで日本と違うと思うところが多い反面、同じだなと思うところも多くあった。これらのことは机上で論文や調査などの書類を見てもわからないことであつたので、現地で色々な人の話を聞くことはとても重要であると感じた。今後もこのような研修があれば積極的に参加していきたいし、次に本研修に参加される方たちにも得るもの大きさを伝え、背中を押したい。 (荒木 美穂)

ホノルルフェスティバルのブース展示では、様々な方がブースに話をしに来てくださった。その中で印象に残ったこととしては、受けられる支援に関しての情報に差異が多かったことだ。そもそもの保険制度の違いがあるため、看護師の行う支援についても違いがある前提だが、「看護師が自宅に来てくれるなんであるのか。そんなの高く使えぬわけがない」と言う一般の方もいれば、「看護師は保険を使って自宅に行くことができる。1日5件くらい回っているよ」と話しをするアメリカの訪問看護師もいた。訪問看護について、受給側と提供側では、同じ認識を持っている方はいなかったように感じた。ただし、老人ホームについては、受給側も提供側も同じような認識を持っていたように思えた。一方で、老人ホームでは、入居金や月々の費用も莫大なお金がかかるが、寝たきりになるようなことがあれば身銭をなげうってでも入所してもらおうとの話を聞いた。ハワイでは、寝たきりになったら、自宅で介護するということはあまりないように思え、最期は病院かもしくは老人ホームで過ごすという認識であるように思えた。 (根岸 由依)

ホノルルフェスティバルは、現地の住民・看護師などが気軽に参加できる場であり、情報共有ができた。特に、看護師のみならず医療に関わる企業をされている方なども多くおり、それぞれの思いを聞けたことがよかった。その中で、日本人の丁寧さ・保険制度(金銭的問題)に対し日本は優遇されていると改めて感じた。

準備段階において、ヨーヨー・折り紙は呼び込み用の会場作りの一つであつたが、「この展示は何ですか」「なぜ今回出展しているのですか」と問われる場面があつた。訪問看護としてのブース展示とは少しかけ離れた印象を与え、「日本の医療制度・訪問看護とハワイとの違い」「日本の訪問看護の魅力」を十分に伝えきれなかったことを実感し、展示の難しさを感じた。 (小口 妃小江)

ブース展示では様々な人が訪れる中で、思った以上に現地での依頼があつた。「日本から来てくれるの」「私の家族の相談をしたい」などの話がいくつかあり、ハワイでの訪問看護サービスの需要を大きく感じた。しかし、日本の看護師免許だけでなく、ハワイで看護師をするならば追加の資格の取得の必要性を知った。また、ハワイでの看護師免許の取得において、基礎教育が充実され

ていたり、資格の更新が2年ごとであったりと制度自体の違いも知れた。また、現地の訪問看護をしている看護師とも話すことができ訪問単価が高く、訪問時間も初回以外はほぼ30分以内とのことで収益性が非常に高いと感じた。訪問件数も、日本の訪問看護とほぼ同じくらいだが、売り上げは何倍も違うことに、社会的な地位の違いが一つの理由とも思った。ハワイは日本語が通じる外国だと思い込んでいたが、実際はほとんど日本語通じる場面はなくある程度の英語力が必要であった。一方で、現地で働く日本人としては、できなくてもなんとかなるという言葉もあり、どこで働くかではなく看護の内容で働くならば国外でも十分通用するのではないかと感じた。フェスティバルでは我々の作ったスライドを見て日本の文化に興味を持って体験してくれる人など多くの方が来場された。そしてあつという間の2日間であった。実際に、現地の人と直接関わる機会があったフェスティバルの展示はとても有意義な活動であったと思う。

(朝倉 之基)

ホノルルフェスティバルではハワイ在住の人や日本から移住した人、他の国から観光に来た人、ご家族に看護師のいる人など、交流をした方は皆、とても友好的に接してくださり、看護師という仕事が世界で信頼を得ていると感じることができた。また、ヨーヨー釣りや折り紙のワークショップには、多くの方が参加してくださり、ワークショップを通じた交流もできた。しかし、モニターでのプレゼンテーションの上映は、数秒程度見られるだけのことが多く、もっと視覚的にわかりやすく伝えていく工夫が必要だったと思った。訪問看護に興味のない人もフェスティバルで展示し、交流することで、いつか家族や自分に訪問看護が必要になった時に思い出してくれるきっかけや繋がりになると良いと感じた。ハワイやアメリカでの看護師や訪問看護師の話聞き、日本との違いも知ることができた。またブース展示を通し交流する中で、英語をもっと理解して話すことができれば伝えたいことも伝えられ、質問し詳しく知ることができたと後悔し残念に思った。今後は、日本でも外国の方も増えていくため、英語でコミュニケーションをとれるように勉強をしたいと思った。(富田 のりこ)

ホノルルフェスティバルで出会った、ハワイ在住の日本人女性に、「しばらくハワイにいる予定だが、アメリカにどんな介護生活の選択肢があるのか分からない。日本にいる母も今は元気だが、今後どうしたらいいか」と相談された。アメリカでも訪問看護や日本人経営の施設があること、これを機会にお母様とお話してみたらどうか伝えた。ハワイでは、介護に関する情報提供があまりなされていないのか、誰に聞けばいいのか分からない状態なのではないかと感じた。私の住む地域においても、住民の方々が在宅療養をイメージし、医療やケアを選択できるような情報発信を模索していきたい。ブースの前に立っていると、各国の看護師さんが声を掛けてくれて嬉しく思った。国は違えど、「一緒に頑張ろう！」という気持ちになった。看板上に「WE♡NURSE」と大きく書いてあったので、声を掛けてくれる人が多かったのだと思う。日本の訪問看護について伝えたり、海外の仕事内容等について教えてもらったり、違いを知ることが出来て面白かった。今回、興味を引いてもらったのは、「NURSE」という看護師を繋ぐワード、日本文化である折り紙、子どもが好きなヨーヨー釣りだったように思う。なかなかブースの奥まで入って訪問中の写真を見てもらったり、モニターをじっくり見てもらったりすることが少なくて残念だったが、ステーション紹介スライドをQRコードで何人か読み込んでもらうことが出来ていたので良かった。

(林 聖奈)

4. 各研修生の学び

ハワイは、様々な人種・国・文化の人々が暮らしている環境である為、宗教・文化・その他多角的視点から捉え、その人を理解して行く事が重要であると感じた。多様な文化社会であることから、内面的な背景を捉えられるような学習プログラムがあり、精神面で支える環境が整っていることが分かった。日々の業務の中で、利用者さんの文化背景などを考えて精神面も支えられるようアセスメントしていきたい。

研修を通し、研修生と長い時間を共有でき様々な考え方に触れる事ができた。日本各地の訪問看護ステーションについてや訪問看護の現状だけではなく、現在行っている活動にたどり着くまでの思いや今後行いたい活動についてなど、ふとした瞬間の思いや長く時間を共有できたからこそ聞けたお話があり、とても有意義だった。日本各地に訪問看護の仲間ができたことは、とても心強くまた皆、様々な経験をされており、とても刺激になった。周りの訪問看護の状況を意識しなければ、他の訪問看護ステーションでの活動について、知ることがなかなかできず、孤独になりやすいのだと思った。宿泊や食事などで長い時間を共有し、自由に考えを話し合えるような場がある今回の研修は、とても良い経験になり、お互いに高められる機会になった。今回の研修で学びたい事が次々と出てきたが、まずは家族や地域を大切にしようと改めて思った。所属事業所の利用者さんについて、育ってきた環境や大切に思っている事などに目を向け、多角的に身体面、精神面、文化的背景などを捉えられるよう関わっていききたい。今後は、ビリーブメントケアについて自事業所で提案し、在宅看護に関わる資格を取得することを考えている。 (ロメーロ 麻衣)

ハワイではコミュニティのつながりが強く、助け合いの精神が根付いていた。この理由として多くの教育機関や非営利団体が存在し、学生へのボランティア活動の機会を提供していることや、豊かな自然環境と文化意識の保護への意識が強く、これらの保護活動に参加することが地域貢献と認識されているからと考える。人種や経済的背景により健康格差が問題となっているハワイでもインフォーマルサービスが充実しているため地域全体で健康弱者を支えていることを学んだ。

自事業所では地域共生社会の実現に向けて暮らしの保健室やイベントを運営したり、施設にカフェを併設している。現在は看護師や介護士の常勤スタッフがボランティアとして活動することはあるが、地域住民のボランティアはほとんどいなが課題であがっている。今後地域共生社会を進めるにあたって日常的なボランティアを募り受け入れたいと考える。方法として、現在医学生実習、看護学生実習を多く受け入れているため実習中に広報し依頼をかける。また看護学生の講師を引き受けているため、授業中に広報する。ボランティア内容としては年2回程度、勇美財団の助成を受けて開催するお祭りで、自事業所を地域住民に知ってもらったり、障害の子どもに楽しんでもらう内容を一緒に企画して運営に携わる。他には普段から自事業所でのカフェの店員や利用者との話し相手、レクリエーションを行う等を考えている。学生ボランティアスタッフには、カフェで勉強場所の提供やフリーWi-Fiを提供し参加を促したいと思っている。 (井手 佳菜)

自分の知らないハワイでの看護基礎教育、ナーシングホームの現状や現地で暮らす人々と直接話げできたことは視野を広げ、改めて日本や自分の現場を振り返るよい機会となった。また一緒に

参加したメンバーとのつながりは日本に戻れば全国に仲間ができたという宝となり、それぞれの場所で大切に実行していることなどにも刺激を受けている。

この研修を通して海外での訪問看護や現地の人からみたその国の医療やニーズを知ることは日本の訪問看護や自分自身の成長のためには有益だと考えた。今回、実際の訪問看護の現場を見られなかったため、別途、今回の研修生と定期的に海外視察に行くことを計画したいと思う。

世界へ日本の看護の魅力を伝える側にもなれるべく、自己を成長させていきたい、また訪問看護を実践する上で、質の高いジェネラリストを目指していきたい。

(河西 真理子)

現地での上記のような様々な学びも大変有用であったが、この研修での最も大きな収穫は一緒に行った日本全国から集まった研修生との出会いと繋がりである。役職や立場は異なるが同じ訪問看護師として集まり、準備の段階から自分にはない発想を持っている方がおられ視野が広がるのが分かった。これからもこのつながり続け、お互い持っている知識や経験を共有し利用者のケアに生かせるように勉強会を計画している。そこで得た知識を自身の職場や周りの看護師に共有することで訪問看護の幅を広げていきたい。

また現地に行くことで、日本で思い描いていたアメリカの看護師像や訪問看護の体制について全く想像もしていない事実や看護師の思いを知ることができた。やはり現地に行くことや自分の目で確かめるということはとても重要であり、何よりも自分がとてもワクワクと心が踊っていることがわかった。新しいことを知ることや挑戦することをやめずに進んでいく楽しさ、そこからの学びが周りに普及してさらに発展していく良い循環を体感することができた。個人的なアクションプランとしては、ELNECを受講し、看取りや緩和ケアについての知識を身につけ、シャミナード大学の講義で聞いた内容について理解を深めていきたい。また英語の勉強も進めて、海外の研修や調査に参加したり、看護師として働き日本の看護を活かしながら、海外で看護師として働くということも考えるきっかけとなった。

(荒木 美穂)

海外研修プログラムでは、新しい発見や今後の行動目標を立てることができた。まず1つ目は、シャミナード大学の学びから事業所の看護の質の統一や向上に向けて、フィジカルアセスメントやACPなどの事業所内研修や所外研修に参加することである。看護師の個々の背景に合わせて、安心して訪問看護が出来るように、研修参加を勧めていきたい。

2つ目は、Nagomi Foster Home とホノルルフェスティバルブース展示での学びから、保険で支援しきれない方のインフォーマルなサポートを実施していきたいと思った。例えば、介護保険サービスにつながることでできない比較的元気な高齢者の話を聞く場としての「暮らしの保健室」の開催を検討している。また、介護保険のサービス利用につながることで、その人のニーズに合ったサービスがないこともあると予想される。例えば、軽度認知症の方のための支援があげられる。軽度の認知症は、ADLこそ自立しているため、介護保険サービスの利用にニーズがない方も多いが、軽度だからこその悩みや不安があると考えられる。そのような方を支える支援も検討していきたい。10名の同期生のつながりを大切にこれからも訪問看護師として一生懸命頑張っていきたい。

(根岸 由依)

今回の研修自己目標の一つに「アサーティブコミュニケーション」を挙げていた。プログラムを通して、皆で意見を出し合い、価値観の違いなどを共有しながら、企画やプレゼンテーションなどを作り上げたことで達成できたと思う。

私自身は、大学病院での看護・自宅への訪問看護・施設への訪問看護などを経験し、それぞれの看護における課題も目の当たりにしている。現在、高齢者を支えるために、自己の課題として、「歩ける足」を大切にするための地域貢献を視野に入れた活動を考えている。ここでは、訪問看護の中で、リンパ浮腫の専門性をアピールした活動も考えている。その際、世界と日本の違い・日本の保険制度・日本人としても誇りを持った訪問看護師の育成・運営・実践に生かし、地域を巻き込んだプレゼン力・発信力を持ち、成長していきたい。

(小口 妃小江)

今回の研修での1番の学びは日本の看護は世界でも通用するということを実感したことであった。シャミナード大学でのシミュレーションセンターの教育も大学の基礎教育で行われていてすごいと思った。一方で、日本でも同じレベルで、基礎教育の後に教育・学習をしている。ただ、やはり看護と向き合う姿勢はだいぶ違うのではないかと感じた。日本の看護大学は、例えば高価なシミュレーターを購入したり、そのトレーナーを採用するという事は聞いたことがない。そういった基礎教育の方針であったり、実際のトレーニングの場はもっと広がるべきである。自事業所でもできる限りアメリカ心臓協会(AHA: American Heart Association)の救命処置などのコースも含めて研修を受講する動線を作ると同時に、英語の学習をできる環境を提供しようと考えている。将来的には会社の目標の一つでもある国外へ日本の看護を輸出することを目指してハワイに拠点を作りたいと考えた。また、日本の制度の範囲内でいかに賃金を高めて看護の業界の地位を高められるかを考えて行動することで将来の看護師不足になった時でも事業が継続できるような仕組みを整えることは直近の最大の課題であると思っている。今回の経験と学びは私の経営者として看護師としての視点を変えてくれた。これまで日本の高齢化はとか、先の人口統計がとかそういったことに目が向きがちであったが、そういったことも含めて今の職員これからの生産年齢人口が働き続けるための仕組みを考えることの方が社会に役立つのではないかと考えた。弊社の理念でもある看護で社会に貢献するという事をより意識して今後も在宅医療に邁進する所存である。

(朝倉 之基)

ハワイ研修に参加し、日本からの研修生の方やハワイに住むバックグラウンドが違う様々な人と交流し会話することで、広い世界を見て、刺激を受け、看護に対する視界が広がった。さらに、研修生の方は、皆とても行動力があり、学ぶ意欲も高く圧倒された。それぞれの地域で懸命に看護に向き合い実践をされていて、積極的に学んでいく姿勢を見習っていきたくと思った。また、研修生の方々の訪問看護事業所の特徴や話を聞き、それぞれ色んなことに挑戦をしており、私も今後今回学んだ活動に挑戦していき、日々の看護に生かしていきたい。

今後に向けては、まずは訪問の対象を広げて幅広くケアができるようになりたい。そして興味のある緩和ケアや認知症看護をもっと深く学んでいきたいと考える。次の活動としては、事業所内のカンファレンス時に、ハワイ研修で学んだことを含め、研修の報告をしていく予定である。また、ハワイ研修をきっかけに英語の勉強も始め、継続して取り組んでいきたい。

(富田 のりこ)

今回の研修で学んだことが5つある。1つ目は、意思確認の大切さ。Weiss先生の講義で、ACPの文書に法的な効力があることやPOLSTの存在を知った。自訪問看護ステーションはがん終末期の利用者さんが多いため、ACPをさらに身近なものにして、実施する機会を逃さないように関わっていききたい。2つ目に、大学教育のレベルの高さ。学内の実習室を見学させてもらい、シミュレーター人形など実習機材がたくさん揃えてあった。安全な環境で難しい実習ができることは学生にとって大きな学びに繋がると感じた。3つ目に、日本の皆保険制度のありがたさ。米国では医療を受けようとした時に、費用の問題で治療を諦める人が多いと知った。日本の国民皆保険制度は当たり前のことではなく、安心して治療やケアを受けることができる素晴らしい仕組みであることを改めて感じた。4つ目に、情報発信の大切さ。ホノルルフェスティバルで、「アメリカでの介護にどんな選択肢があるのか分からない。」という相談を受けた。私の住む地域においても、住民の方々が在宅療養をイメージし、医療やケアを選択できるよう情報発信を模索していききたい。5つ目に、訪問看護財団や他ステーションの方々との交流や会話が刺激になったこと。他の事業所の方の働き方や志のようなものを肌で感じられたことがとても良い経験になった。今後、自訪問看護ステーションで自身がどのように活動するかを考え直す機会にもなった。素敵な仲間に出会えたことに感謝し、仲間たちとの繋がりをこれからも大切にしていきたい。今後は、訪問看護師の役割や自訪問看護ステーションの活動、海外研修の報告を看護学生に伝え、訪問看護師に興味を持ってもらえる機会を作りたいと思っている。また、今回の海外研修で学んだことを富山県看護協会の広報に寄稿の予定である。「住み慣れた地域で暮らすことをあきらめない!」、共に頑張りましょうという明るい未来が届きますように。

(林 聖奈)

コラム:タイ プリンス・マヒドン賞のサイドミーティング

「コミュニティナース: 健康の公平性のためのハイテク&ハイタッチアプローチ」

東都大学松田正己先生によりプリンス・マヒドン賞にて、日本の訪問看護の実際についてのスピーチ依頼があり、海外研修生の高田雄貴さんに発表頂いた。

プリンス・マヒドン賞での学びは2点ある。まず、松田先生との打ち合わせのミーティングで看護学科の教授である松田先生でも日本の訪問看護についての理解が不足していたと話されていたことである。同じ看護学という分野でもまだ訪問看護について普及できていないという現状を学ぶことができた。私は所長として地域のイベントを開催して一般市民にも周知活動をしているが、同じ看護分野にも普及をしていく必要を感じることができた。二つ目は、実際にタイの現状をカンファレンスの中で知ることができ、訪問看護という分野に関して、介護・医療保険制度の中で発展してきた日本の知見は他国での看護に活かすことができると実感できたことであった。同じく参加されたアメリカの教授がアメリカでの現状を発表されており、公衆衛生的な事柄や先進的な技術を使用することは他国の方が優れているかもしれないと感じた。しかし、生活に根差して専門的に看護展開している日本の訪問看護については、他国にはない価値があると感じた。また、タイでの実践に関しては地域包括のような仕組みは作られているが、看護師主導のステーションのような仕組みはまだなく、看護の専門性を発揮するシステム作りは提供できると感じた。以上の2点から、他国の実践やシステムを理解することで、今後日本の訪問看護の知見を発信していく切り口を見つけていけることができると考える。そのためには、様々な展開を見せている日本の訪問看護の現場の実践を日頃から言語化しておき、それをもとに他国とのディスカッションを通して、日本の丁寧で発想力のある実践を発信していくことが求められると思う。(高田雄貴)

～プリンス・マヒドン賞カンファレンス サイドミーティング概要～

プリンス・マヒドン賞は、公衆衛生分野で功績を遺したタイ王子の名をとった賞で、「公衆衛生」と「医学」の賞がある。授賞式に伴い、2007年よりバンコク市で毎年国際会議が開催される。今回はプリンス・マヒドン賞カンファレンスのサイドミーティングにて日本の訪問看護を報告する機会を得たため、その学びについて記載した。

<サイドミーティングテーマ>

コミュニティナース: 健康の公平性のためのハイテク&ハイタッチアプローチ

<サイドミーティング開催日時>

2025年1月29日 14:00-17:30

Side Meeting (SMB132) PMAC (PRINCE MAHIDON AWARDS CONFERENCE) 2025

Community Nurse:
High-Tech & High-Touch Approach
for Health Equity (Hybrid)

"Explore global models, policies,
and innovations in nurse-led clinics
to enhance UHC, SDG-3, and
equitable primary healthcare."

SPEAKERS

 TASSANA BOONTONG Deputy Director, Professor of Nursing	 SUCHITRA LIANGAMORNLEERT President of Thailand Nursing and Midwifery Council	 SIRHORN SINDHUL The President of the Nurses' Association of Thailand
 LAURA L. CALAMOS Clinical Professor, University of Michigan	 KHANITTA NUNTABOOT Former Dean, Mahachulalongkornrajavidyalaya University	 YAJAI SITTIMONGKOL Former Dean, Faculty of Nursing, Mahachulalongkornrajavidyalaya University
 PRAKIN SUCHAKAYA Assistant Professor, Mahachulalongkornrajavidyalaya University	 TAKATA YUUKI Director of Global Nursing, National Center for Global Health Research, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology	 SURIADI JAIS Head of IT, Technology and Service, Bangkok Bank Public Company Limited

29 JANUARY 2025
14.00 - 17.30 PM
LOTUS SUITE 11, FL. 22
Central World B. Skyplex
Convention Center at Central World

Scan for more details about the side meeting

CO-HOST

Watch the live broadcast on the NISO Facebook page. Scan the QR code to access. <https://www.facebook.com/NISO.Thailand/>

おわりに ～早野先生より総括～

今回の研修では、現地わずか3日という短い研修期間にも関わらず、ホノルルフェスティバルにおける市民レベルでの訪問看護に関するコミュニケーションと交流、大学における緩和ケアに関する体系的な講義、Nagomi Foster Home というホスピスケアの現場と、タイプの異なる訪問看護、在宅ケア、終末期ケアを学ぶことができました。

最初からそれらを繋ぐことを意図したものではありませんでしたが、結果的に、研修初日にシャミナード大学の講義で学んだことが、Nagomi Foster Home 訪問で学んだの現場の状況やフェスティバルを訪問してくれたナースプラクティショナーの仕事などで裏付けられたことは大きな収穫となったのではないのでしょうか。学びがすべてつながっていったことは本当に幸いだと思います。この短い期間にこれだけ多くのことを学べたのは、財団の方々の努力と研修生皆さまの積極的な学びの姿勢があったからだと思います。

また、このプログラムに参加されることにより、普段親しく言葉を交わす機会がない方々、出会えなかったかもしれない日本の各地で訪問看護、在宅ケアに尽力される方々とお互いに知り合いになれたこと、さまざまな情報交換ができたことも、このようなプログラムだからこその利点ではないでしょうか。皆さまが今後も繋がっていくことによって、また新たな展開が見られるのではないかと予感します。さらに、外に出たことで、また他のステーションの方々と交わることで、日本の訪問看護、そして自身の訪問看護ステーションの看護の有りようについて、新たな気づきや振り返りができたのではないかと思います。

ただ一つ、海外の医療や文化などについての学びを他の人に語るときに留意しておいていただきたいことをお伝えしたいと思います。それは、そこで学んだことはあくまでも自分が経験した範囲内でのことで、その国や地域の医療や文化について一般化できるものではないという視点をもつことが大切だということです。同様に、今回アメリカで出会った人々や医療職の方々の話から多くの刺激を受け、多くの学びがあったと思いますが、それはあくまでもその方々の経験の範囲内でのものであって、アメリカの看護や文化、ハワイの看護や文化として「アメリカではこうだ」「ハワイではこうだ」と一般化できるものではないかもしれないという視点を忘れないでいただきたい、それをお伝えしておきたいと思います。

最後に、この研修を計画して実施するまで、財団の方々が非常に多くの時間と労力を割かれたことは想像に難くありません。そのご尽力に心からの敬意を表したいと思います。

また、研修生の方々も、仕事で忙しい中を、複数のワークショップに参加しながら、個別にスライドの準備もするという作業に取り組むのはさぞ大変なことだったと思います。海外へ行くのにかかる時間を捻出するのも、仕事や家族との調整などもとても大変だったに違いありません。さまざまな困難を乗り越えて、このようなプログラムに参加し学びを深めたいというその意欲とエネルギー、日本の訪問看護をより質の高いより良いものにしたい、コミュニティに貢献したいというその強い思いに深く感銘を受け、研修生の皆さまの今後の活躍に大きな期待を寄せていることを申し添えておきたいと思います。

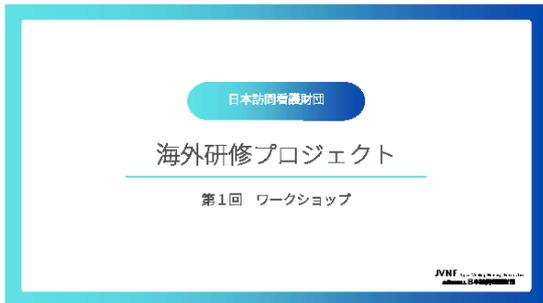
早野真佐子

医療福祉ジャーナリスト／

東京医療保健大学国際交流プログラムアドバイザー

Appendix 1

ワークショップ資料



ご挨拶



当財団平日常務理事よりご挨拶

本日のアジェンダ

- 📌 事業概要説明
- 📌 ホノルルフェスティバルの紹介 (JTB 矢部様)
- 📌 JTB申込WEBサイト (OA-SYS) について (JTB 矢部様)
- 📌 参加者自己紹介

プロジェクトの目的

- テーマ**
日本初の教育プログラム！
海外での体験を通して、コミュニティで活躍できる訪問看護になる
- プロジェクトの目的**
- 海外での視察やホノルルフェスティバルでのブースでのプレゼンや交流を通して、今後の地域のコミュニティで活躍できる訪問看護師を育成する
 - 今後の地域医療、地域の訪問看護を担う中核人材となるような若手訪問看護師のネットワークを構築する
 - ブース出展により広く訪問看護を知ってもらう

プロジェクト内容

本プロジェクトの2つの特徴

01. ホノルルフェスティバルブース展示

ホノルルフェスティバルでブース出展を行います。ホノルルフェスティバルでのハワイ、日本の異業種、多世代との交流を通して、コミュニティで活躍できる訪問看護師になるためのスキルを磨きます

02. ハワイでの高齢者施設見学

ハワイでの高齢者施設の見学を通して、現地の看護観とディスカッションをします。

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

※この研修は12日より事前研修の予定となります！

本日	2024年12月	2025年1月	2025年2月
<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手帳やシステム等の紹介 ✓ 自己紹介 <p><次回までの課題> 所属ステーション紹介PPT作成(日本語)</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての課題 ✓ 所属ステーション紹介(日本語) <p><次回までの課題> 所属ステーション紹介PPT作成</p>	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習 ✓ ブース展示企画 <p><次回までの課題> ハワイ研修で学びたいこと</p>	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 出展準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ ブース展示最終確認 <p><次回までの課題> 出展準備</p>

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

本日	2024年12月	2025年1月	2025年2月
<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手帳やシステム等の紹介 ✓ 自己紹介 <p><次回までの課題> 所属ステーション紹介PPT作成(日本語)</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての課題 ✓ 所属ステーション紹介(日本語) <p><次回までの課題> 所属ステーション紹介PPT作成</p>	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習 ✓ ブース展示企画 <p><次回までの課題> ハワイ研修で学びたいこと</p>	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 出展準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ ブース展示最終確認 <p><次回までの課題> 出展準備</p>

ハワイ研修当日のスケジュール

3/9(木)	東京発 ホノルル着	空港からホノルルへ 空港より前泊ホテルへ
3/7(金)	ホノルル	<ul style="list-style-type: none"> ● ハワイコンベンションセンター (ホノルルフェスティバル海外事務局) ● 医療ケアステーション見学(MedQuest, LLC)
3/8(土) 3/8(日)	ホノルル	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者施設見学(Aloha Foster Homes) ● ハワイコンベンションセンター (ホノルルフェスティバルブース出展)
3/10(月)	ホノルル発	ホテルから空港へ、帰国の途へ
3/11(火)	東京着	(日付変更連絡)

報告書と報告会スケジュール

- 報告書**：2025年4月頃 提出
- 報告会**：2025年5月頃 開催



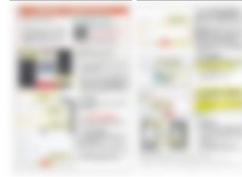
💡 質疑応答

ホノルルフェスティバルについて(JTB矢部様より)



JTB申込WEBサイト(OA-SYS)について(JTB矢部様より)

※お送りしたPDFをご覧ください



※ESTAの代行申請については今回の開催の補助に含まれますので、このシステムで手続きをお願いします。

※任意の海外旅行保険、お土産、WiFiについては個別の補助の対象外になりますので、必要なお申し込みをしてください。(JTBから個人への請求になります)

※登録締切日:2024年12月10日(水)13:59

所属訪問看護ステーション紹介PPT作成

◆所属の訪問看護ステーションの且本屋で紹介スライドを作成してください(1ページ、3分での発表の目安です)

◆日本の訪問看護について(訪問看護制度の概要)

◆参考:日本訪問看護財団 Structure of the Visiting Nursing system in Japan(日本の訪問看護のしくみ)

◆英語 https://www.vnfor.jp/ebba/Structure_of_the_Visiting_Nursing_system_in_Japan_Eh.pdf

◆日本語 https://www.vnfor.jp/ebba/Structure_of_the_Visiting_Nursing_system_in_Japan_J.pdf

◆ 事業概要

◆ 利用者の特徴

◆ 訪問看護の実態

◆ 紹介スライドを基に訪問ワークショップでは、且本屋で発表いただきます

◆ 締め切り:12月1日(日)13:59

以下のGoogle フォームから提出ください

(パワーポイントをお送りできない方は、CanvaのスライドやGoogle slideなどでも可です。22もしくは23の形式で提出してください)



質疑応答

JVNF海外プロジェクト Slackについて

皆さんに交際いただくために、コミュニケーションツールとして、Slackを使います



以下を参考に、3分程度で自己紹介をお願いします!

自己紹介の内容

- お名前
- ご所属・訪問看護ステーションでの役割など
- なぜこのプロジェクトに申し込んだか、プロジェクトを通して、どういったことを学びたいか



自己紹介の順番

	氏名	所属
1	河西 真璃子	あすか山訪問看護ステーション
2	林 蓮華	だいもん訪問看護ステーション
3	井手 佳葉	MEIN HAU S訪問看護ステーション
4	高田 隼貴	ケアプロ訪問看護ステーション東京
5	ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション にこにこ
6	荒木 貴雅	横浜訪問看護・リハビリステーション
7	富田 のりこ	訪問看護ステーション駿河
8	根岸 由依	すみれ訪問看護ステーション
9	船倉 之基	Five Star 訪問看護・栄養管理Station
10	小口 紀小江	訪問看護スマイルナーシング名城



本日のアジェンダ

- 参加者の日本語でのプレゼンテーション
- 英語プレゼンテーションの講義（早野先生）
- 次回までの課題の説明

プロジェクトの目的（再掲）

テーマ
日本初の教育プログラム！
海外での体験を通して、コミュニティで活躍できる訪問看護になる

プロジェクトの目的

- 海外での視察やホノルルフェスティバルでのブースでのプレゼンや交流を通して、今後の地域のコミュニティで活躍できる訪問看護師を育成する
- 今後の地域医療、地域の訪問看護を担う中核人材となるような若手訪問看護師のネットワークを構築する
- ブース出展により広く訪問看護を知ってもらう

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年 11月 2024年 12月 2025年 1月 2025年 2月

第1回	第2回	第3回	第4回
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手続き等システムの紹介 ✓ 自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての講義 ✓ 所属ステーション紹介（日本語） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習 ✓ ブース展示企画 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出展前準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ ブース展示最終確認

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年 11月 2024年 12月 2025年 1月 2025年 2月

第1回	第2回	第3回	第4回
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手続き等システムの紹介 ✓ 自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての講義 ✓ 所属ステーション紹介（日本語） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習 ✓ ブース展示企画 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出展前準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ ブース展示最終確認

ホノルルフェスティバルの参加者（プレゼンテーションの対象）

ホノルルフェスティバルの参加者

- ハワイ現地の小中学生
- 日本の企業、自治体、団体
- ハワイ現地の企業
- 日本の学生
- ハワイ現地の住民の方々

日本語のプレゼンテーション

提出されたPPTにて、日本語でプレゼンテーションをお願いします

プレゼンテーションの内容

- 日本の訪問看護について（訪問看護制度の概要）
- 事業所概要
- 利用者の特徴
- 訪問看護の実際

プレゼンテーションの際の注意点

- プレゼンテーションは1人5分をお願いします
- 5分になりましたら事務局の方でタイマーを鳴らします
- PPTは発表者側で画面共有をしてください
- プレゼンテーションの順番は次ページを参照ください

プレゼンテーションの順番

氏名	所属
1 小口 紀小江	訪問看護スマイルナーシング名保
2 朝倉 之基	Five Star 訪問看護・栄養管理Station
3 榎井 由依	すみれ訪問看護ステーション
4 富田 のりこ	訪問看護ステーション 駿河
5 荒木 美穂	横浜訪問看護・リハビリステーション
6 ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション にこにこ
7 高田 達貴	ケアプロ訪問看護ステーション東京
8 井手 佳菜	MEIN HAUS 訪問看護ステーション
9 林 聖美	だいまん訪問看護ステーション
10 阿西 真璃子	あすか山訪問看護ステーション

英語プレゼンテーション講義

英語プレゼンテーション講義(早野先生より)

質疑応答

プレゼンブラッシュアップと英語のプレゼン作成

課題① ✓ 今回の講義とお互いのプレゼンの発表を受けて、日本語のプレゼンの内容をブラッシュアップしてください
✓ 英語のプレゼンテーションを作成ください

目的

- 事業所概要
- 利用者の特徴
- 訪問看護の実態

◆提出スライドを基に次回ワークショップでは、英語で発表いただきます

◆作成のポイント

- 元となる日本語のPPTも今回の他の資料のPPTや発表を参考にして、修正ください
- 日本語を単に英語にするだけではなく、英語での表現を意識して作成ください
- ◆ 次回ワークショップまでに英語のプレゼンテーションの原案を準備いたしますので、ぜひご参加ください(任意参加です)

日本の訪問看護についてグループワーク

課題② ✓ 日本の在宅ケア、日本の訪問看護についてはそれぞれグループでひとつ日本語のPPTを作成ください

＜それぞれのグループで担当のテーマについて日本語のPPT作成(スライド:枚程度を目安)＞

グループA ・日本の在宅ケアについて

グループB ・日本の訪問看護について(訪問看護制度の概要)

◆参考:日本訪問看護制度 Structure of the Visiting Nursing system in Japan (日本の訪問看護のしくみ)

英語 https://www.jvf.or.jp/akba/Structure_of_the_Visiting_Nursing_system_in_Japan_PN.pdf

日本語 https://www.jvf.or.jp/akba/Structure_of_the_Visiting_Nursing_system_in_Japan_J.pdf

グループわけ		
チーム	氏名	所属
1 A	朝倉 之基	Five Star 訪問看護・栄養管理Station
2 A	富田 のりこ	訪問看護ステーション駿河
3 A	ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション にこにこ
4 A	高田 雄貴	ケアプロ訪問看護ステーション東京
5 A	井手 佳菜	MEIN HAUS 訪問看護ステーション
6 B	小口 紀小江	訪問看護スマイルナーシング名城
7 B	根岸 由依	すみれ訪問看護ステーション
8 B	荒木 美穂	福康訪問看護・リハビリステーション
9 B	林 聖奈	だいまん訪問看護ステーション
10 B	河西 真理子	あすか山訪問看護ステーション

04はグループAのメンバー

ブース展示案のアイデア出し

課題③ ブース展示のアイデア出し

現在、事務局ではブース展示について以下のようなアイデアを考えています。今日の課題では、皆さんからもアイデアを、お出しして頂ければと思います。特に立ち寄ってくださった方が何か体験できるものがあると良いかと思っていますので、ぜひ一層ご考案ください。

- 参加者の方々のプレゼン動画を流す
- プレゼンの内容をリーフレットなどで配布する
- 訪問看護紹介のパンフレット(財団のパンフレット)の配布
- ブースに立ち寄ってくださった方への訪問看護の説明 など

◆参考: 昨年のホテルフェスティバルの展示

課題① ✓ 今回の講義とお互いのプレゼンの発表を受けて、日本語のプレゼンの内容をブラッシュアップしてください
✓ 英語のプレゼンテーションを作成ください

課題③ ブース展示のアイデア出し

課題提出締め切り①、③(個人) 1月15日(木) 23:59

①、③は以下のGoogle フォームから提出ください。

英語のプレゼンテーションについては提出順で順次早番先生よりフィードバックがあります。

課題② ✓ 日本の在宅ケア、日本の訪問看護についてそれぞれグループでひとつ日本語のPPTを作成ください

課題提出締め切り②(グループワーク) 1月26日(日) 23:59

②については、グループのどちらかの方(グループA:高田さん、グループB:河西さん)がグループで作成したPPTを以下にアップロードください。

SNSフォローをお願いします

財団公式アカウント



X
@jvnf_official



You Tube
@houmonkango_zaidan_PR

キャラクター名募集



応募方法 Google フォームからご応募ください
<https://forms.gle/8LW383838383838383>

応募期間 2024年1月10日(土)~2024年1月31日(金)

応募資格 訪問看護士応募してください
どなたでもご応募できます

Presentations in English

Masako Hayano-Zito
International Program Adviser, Tokyo Healthcare University
Professional Healthcare Translator, Interpreter, and Journalist

このワークショップの目的

- グループ全体として、日本の在宅ケアのシステムがどうなっているのか、利用者目線にたった提示の仕方を検討する。
- そのなかでの訪問看護として提供するサービスについてわかりやすく説明する方法を学ぶ。
- 提出されたスライドが、一般の人にわかる内容になっているかを確認し、どんな修正を加えればいいのかを学ぶ。
- 修正を加えたスライドの日本語を英語に翻訳する際、それを口頭で伝える際の注意事項について学ぶ。

アメリカの在宅ケア・訪問看護についてのミニ知識

- アメリカの訪問看護は基本的に、退院後の患者に提供する亜急性期ケア
- かなり高度なケアを提供できる幅広い専門職をそろえている
- 基本的に医師の訪問はない
- 回復状態が横ばいになったら在宅ケアは中止（3か月程度）
- 介護保険はない
- 訪問看護や訪問リハビリはすべて医療保険、低所得者の場合はMedicaidで対応
- 在宅ホスピス

日本の在宅ケアと訪問看護のシステム

- 支援が必要な疾患や障害を抱える人々が地域で暮らすためのシステムを図式化→どのような専門職がかかわっているか、利用者を中心とした図
- そのシステムを利用するための介護保険、医療保険、障害者支援制度についての簡単な紹介。
- このシステムの中で、訪問看護は、どのような位置づけなのか。
- このシステムの中で、訪問看護を受けることができる人はどのような人か。
- 支援を受けるために利用者（家族）がたどるプロセス

訪問看護についてわかりやすく説明する

- 病院との違い
 - ・ 看護を提供する場所の違いによって生じる違い
 - ・ 患者の症状のレベルや対応する疾患の幅の違い
 - ・ 介護保険による制約
- 患者のタイプによるケア内容の違い
 - ・ 日常生活での健康状態の確認、悪化させないための予防的ケア・介護者の教育・相談
 - ・ 病院にかかる必要のない急性期症状への対応
 - ・ 終末期の看取り

一般の人にわかる説明を心がけよう

- 一般の人にはなじみのない用語をつかっていないかの確認
e.g. 看護小規模多機能型居宅介護、皮膚・排泄ケア認定看護師、従命がいらす、留置カテーテルなど
- 使う必要がある場合は、簡単な説明を加える工夫
- あくまでも、一般の人にわかってもらえる、受け手の側に配慮した内容、表現を心がける

個別のスライドのタイトルページで重要なこと

- 魅力あるタイトル！（例：地域共生型社会の実現に貢献！）
- ステーションの名前
- ケアを提供する地域（マップ）
- 作成者の名前

2ページ目～

- そのステーションの規模
- 提供するケアの内容
- 訪問看護として提供するケアの内容
- 訪問看護を受けるために利用者が利用できる制度
- 利用者：数、年齢とその割合、

誰の視点か、主語はだれか、重複はないか

- 誰の視点かを明確にする
- 主語はだれなのかを明確にする
- 同じページ、あるいはページが別でも、重複はさける

明瞭な英文スライド作成のコツ

- 説明はできるだけ簡潔に
- 主語動詞の一致
- 受動態はできるだけ避ける
- 可能であれば、図式化する
- 写真やイラストを用いる
- DeepLは活用しても僥用しすぎない

- 内科クリニックに通う患者様が訪問看護が必要になった場合に、主治医が訪問看護指示書を書いて、往診も対応しているため、長く付き合いがあり信頼関係が築くことができる。

↓

By DeepL:
When a patient attending an internal medicine clinic needs home nursing care, the attending physician writes a home nursing instruction and also handles house calls, allowing for a long relationship and building trust.

↓

By Hayano-Zito:
When a patient needs nursing care at home, the patient's primary physician writes an order for it and makes regular home visits. We work both the physician and the patient, which helps us build trust and a long-term relationship among us.

- 地域共生社会の実現に貢献

By DeepL:
Contributing to the realization of a community-based symbiotic society

By Hayano-Zito:
Contributing to building a community-based symbiotic society
Contributing to creating a symbiotic community

- スライドの説明英文を作成するときに注意すること

- 最初に、これから何を伝えようとするかを簡潔に述べる
- 主語、動詞を明確にする
- 曖昧な表現をさける
- 可能な場合、受動態は避ける
- 名詞をつなぐスタイルをさける (簡潔な文へ)
- 長文を避ける
- 同じ単語の重複をさける
- 最後に、自分たちが目指している訪問看護で締めくくる

- 訪問看護の強みは、地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まですべての年代の方に、1人ひとりに必要な支援が行えるところ

です。

By DeepL:
The strength of home health care nursing is that it can provide the necessary support for each individual in the community, for all ages, from babies to the elderly.

By Hayano-Zito:
We can provide nursing care at home to qualified individuals of all ages, from babies to senior citizens, in the community; that is our strength.

Our strength is that we can provide nursing care at home to qualified individuals of all ages, from babies to senior citizens, living in the community.

- 英語で口頭で伝える時に大切なこと

- 声にだして何度も読み込むこと
- 知ってほしい、伝えたいという思いで話すこと (伝える力、惹きつける力)
- ビデオを撮影時は、できるだけ正面を見るようにする
- 発音はパーフェクトでなくても大丈夫
- イントネーションにはできるだけ気をつけよう

- 在宅ケア関係のアメリカ英語

- 在宅ケア: home health
- 訪問看護: home health nursing/home health nurse
- 在宅リハビリ: home health rehab (rehabilitation)
- 訪問看護ステーション: home health nurse agency
- 在宅ケア事業所 (病院以外の機関も含む): home health agency
- 正看護師: registered nurse (漢字、省形形のRNをよく使う)
- ヘルパー: certified nurse aide (略称CNA)
- 管理栄養士: registered dietitian
- デイケア: adult day care center
- 介護保険: home health insurance
- 褥瘡: 一般の人向けには pressure ulcer または bed sore (専門用語はdecubitus)
- 褥瘡ケア: wound care (傷口の創; wound care for pressure ulcer)
- 排泄ケア: continence care
- 失禁ケア: incontinence care

Good Luck !!

日本訪問看護財団

海外研修プロジェクト

第3回 ワークショップ

JVNF

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年 11月 2024年 12月 2025年 1月 2025年 2月

第1回 第2回 第3回 第4回

- 第1回: 概要説明、手続変更システムの紹介、自己紹介、次回までの課題、所定セッション紹介PPT作成(日本語)
- 第2回: 英語プレゼンテーションについての説明、所定セッション紹介(日本語)、次回までの課題、ハワイ研修で学びたいこと、ブース展示案
- 第3回: 英語プレゼンテーション練習(早野先生)、ブース展示企画、次回までの課題、ハワイ研修で学びたいこと、ブース展示に使用するもの(提出(ポスター、動画等))
- 第4回: 出発前準備について、ハワイ研修で学びたいことの発表、ブース展示最終確認、次回までの課題、出発前準備

※研修の最終日は、に泊り研修を実施いたします

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年 11月 2024年 12月 2025年 1月 2025年 2月

第1回 第2回 第3回 第4回

- 第1回: 概要説明、手続変更システムの紹介、自己紹介、次回までの課題、所定セッション紹介PPT作成(日本語)
- 第2回: 英語プレゼンテーションについての説明、所定セッション紹介(日本語)、次回までの課題、英語プレゼンテーションの作成、ブース展示案
- 第3回: 英語プレゼンテーション練習(早野先生)、ブース展示企画、次回までの課題、ハワイ研修で学びたいこと、ブース展示に使用するもの(提出(ポスター、動画等))
- 第4回: 出発前準備について、ハワイ研修で学びたいことの発表、ブース展示最終確認、次回までの課題、出発前準備

本日のアジェンダ

- ☑ ハワイ研修について (事務連絡)
- ☑ 参加者の英語でのプレゼンテーション (ブレイクアウトルームにて早野先生による講評)
- ☑ ブース展示についての話し合い (英語プレゼンテーションと平行して実施)
- ☑ 次回までの課題の説明

ハワイ研修について

フライト (予定)
3月6日 (木) JAL074便
羽田 (21:00) → ホノルル (09:00)

3月10日 (月) JAL-073便
ホノルル (11:55) → 3月11日 (火) 羽田 (15:55)

ホテル (予定)
ホリデイ イン エクスプレス ワイキキ IHGホテル

ハワイ研修について 旅程

月日	場所	行程	食事
3/6(木)	東京発	空母ホノルルへ	夕: 昼内
	ホノルル着	宿泊ホテルへ	昼: 昼内 夜: 夕: 〇
3/7(金)	ホノルル	①ハワイコンベンションセンター (Kalahele Plaza) (多言語研修) ②在宅ケアセッション見学①/ akaha Hoagators, LLC ③フレンドシップバーディ	昼: 〇 夜: 夕: 〇
3/8(土) 3/9(日)	ホノルル	④高齢看護実践場(Alagoni Foster Home) ⑤ハワイコンベンションセンター ⑥ホノルルフィッシュマーケット(ブース展示)	昼: 〇 夜: 夕: 〇
3/10(月)	ホノルル発	ホテルから空港へ、帰国の途へ	昼: 〇 夜: 昼内 夕: 〇
3/11(火)	東京着	(日付変更確認)	昼: 昼内

※JTBより旅のしおりが来ましたら皆様にお送りします

本プログラムのねらい

- ☑ 英語でプレゼンテーションが完璧にできるというよりは帰国後ほかの人を巻き込んだ企画ができるためのプレゼン力と発信力を高める
- ☑ 英語プレゼンテーションの体験をして頂き現地でも英語の説明に挑戦できる
- ☑ 日本の企業や修学旅行生、看護学生も来られるので、今回資料に整理したことを活かして日本語でも説明できる

英語のプレゼンテーション

早野先生に英語でプレゼンテーションをお願いします

プレゼンテーションの際の注意点

- 順番になりましたらお声がけするので、ブレイクアウトルームに割り振ります
- プレゼンテーションは1人5分以内をお願いします
- 5分になりましたら事務局の方でタイマーを鳴らします
- PPTは発表者側で画面共有をしてください (難しいようでしたら事務局にお声がけください)
- 最初に、早野先生の修正でわからない箇所についてお伺いします (早野先生に修正頂いたプレゼンテーションについて事前にご確認ください)
- プレゼンテーションが終わりましたら、早野先生より講評を頂きます

プレゼンテーションの順番

プレゼンテーションの順番	
当日予定	
1	冨田 のりに 訪問看護ステーション健河
2	ロメーロ 麻衣 訪問看護ステーション にこにこ
3	林 夏菜 だいまん訪問看護ステーション
4	井手 佳菜 MEIN HAU 訪問看護ステーション
5	高田 雄貴 ケアプロ訪問看護ステーション東京
別日予定	
6	根岸 由依 すみれ訪問看護ステーション
7	荒木 美穂 楓葉訪問看護・リハビリステーション
8	小口 紀小江 訪問看護スマイルナーシング名城
9	船倉 之基 Five Star 訪問看護・栄養管理Station
10	阿西 真穂子 あすか山訪問看護ステーション

ブース展示について

- ☑ グループで話し合ったことをまずは発表してください
- ☑ 次ページに皆さんが書いてくださったアイデアを掲載しています
- ☑ 展示について自由に話し合ってください
- ☑ 質問等がございましたら事務局にお声がけください

提出頂いたアイデア①(順不同)

JVNF 日本看護学会
www.jvnf.or.jp

ブース展示アイデア
<p>訪問看護の類似体験として、血圧やサチュレーション測定、聴診器で胸や腹部のお話を聞くなどの、簡単なバイタルサイン測定をする体験、体験したい方のそばに1人サポートして優しく教えてあげる。高齢者体験、学生の時メカやベストなど、装着して視界が狭く動きも制限になってしまうのが体験できる。杖歩行や車いす乗るのもいいかも。</p> <p>訪問に使用している物品の展示、自宅で工夫している事・物の紹介、バイタル測定</p> <p>①スタッフ着で、同じTシャツを着る(スクラブのほうが管理面としての距離があると思うが、金銭的にどうか) ②名札を作る(ニックネームなどで小学生などが楽しみやすいように) ③ボールなどで作成してもよさそう。 ④折り紙で一緒に胸-腹部など作る (日本の国旗のような折り紙だと、よい印象悪いかも、100均でも売っている) 日本の伝統な遊びでも、リハビリテーションにもなるところから提案。 (あらかじめ折り方をA3用紙のような大きな紙に書いておくことも、よいかも)</p>

提出頂いたアイデア②(順不同)

JVNF 日本看護学会
www.jvnf.or.jp

ブース展示アイデア
<p>・動画だけでなく、現場でのプレゼンテーションも実施したい(その場で質問してもらい、よりコミュニケーションを掘りたい) ・血圧測定など体験型のものも少しやって接客を行う 仕事中の写真や動画をスクリーン表示する、訪問パックとか在宅あるある物品の展示</p> <p>アイデアは2つです。 ①参加者の方がどの項目に興味を持ったか(面白かったか)、推進部を書いてある表ではある項目にシールを貼ってもらおう。(項目の例:在宅ケアの概要、日本の訪問看護の概要、各事業所の概要など) ②訪問看護パックの中身を机の上、もしくは写真で展示する。</p> <p>訪問看護パックの中身の展示、医療物品を在宅の身近なもので置き換える工夫(測血機ポル→ベクトルポルの穴に穴をあけて使う)</p> <p>バイタル測定体験 足部体験</p> <p>日本の橋下倉コーナー、ヨーヨー祭り、サルコペニア診断コーナー</p> <p>実演 呼吸リラクゼーションやマッサージなど?</p>



💡 質疑応答

次回までの課題について①

JVNF 日本看護学会
www.jvnf.or.jp

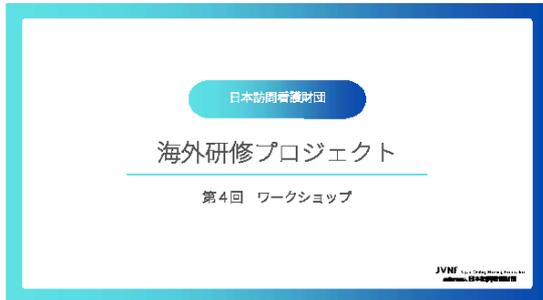
ハワイ研修で学びたいこと

課題①	✓ ハワイ研修で学びたいことを記載ください(500文字以上)
課題②	✓ ブース展示について、今回決定した制作物を提出してください ※もし、ポスター等の印刷を印刷会社に依頼する(市等の印刷)でしたら、遅くとも最終のものを2/15までにお送り頂く必要があります

最終提出締め切り:①(個人)2月15日(土)23:59

②は以下のGoogleフォームから提出ください。

詳細については皆さんの話し合った結果を基とめ、改めて提出物と課題などを教えてください。



ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年11月 2024年12月 2025年1月 2025年2月

第1回	第2回	第3回	第4回
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手続等システムの紹介 ✓ 自己紹介 <p><次回までの課題> 新入ステーション紹介PPT作成(日本語)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての概論 ✓ 新入ステーション紹介(日本語) <p><次回までの課題> 英語プレゼンテーションの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習(予定あり) ✓ プース展示企画 <p><次回までの課題> ハワイ研修で学びたいことの発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出発前準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ プース展示最終確認 <p><次回までの課題> 出発前準備</p>

ワークショップについて

ワークショップではハワイ研修を充実したものとするための準備や英語のプレゼンテーションの練習をします

2024年11月 2024年12月 2025年1月 2025年2月

第1回	第2回	第3回	第4回
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 概要説明 ✓ 手続等システムの紹介 ✓ 自己紹介 <p><次回までの課題> 新入ステーション紹介PPT作成(日本語)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーションについての概論 ✓ 新入ステーション紹介(日本語) <p><次回までの課題> 英語プレゼンテーションの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語プレゼンテーション練習(予定あり) ✓ プース展示企画 <p><次回までの課題> ハワイ研修で学びたいことの発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出発前準備について ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表 ✓ プース展示最終確認 <p><次回までの課題> 出発前準備</p>

本日のアジェンダ

- ✓ 出発前準備と注意事項について
- ✓ ホノルルフェスティバルについて
- ✓ 見学先の説明
- ✓ プース展示等準備の確認
 - ①プレゼン動画確認
 - ②ポスター確認
 - ③プース展示確認
- ✓ ハワイ研修で学びたいことの発表

ハワイ研修について 旅程①

月日	地名	時間	行程
3/6(木)	東京発	18:00	空路ホノルルへ 18:00羽田発着
	ホノルル着	9:00	空港より宿泊ホテルへ
	ホノルル	18:00	夕食 アロハーパール
3/7(金)	ホノルル	10:00-12:00	シャミナード大学にてアメリカにおける緩和ケアの概論 ※在宅ケアステーション(Ho'ouka Navigator, LLC)は 看護院オンラインで話を聞く機会を設ける予定
		午後	ホノルルフェスティバル展示準備(ハワイコンベンションセンター)
	ホノルル	18:00	フレンドシップパーティー

ハワイ研修について 旅程②

月日	地名	時間	行程
3/8(土)	ホノルル	10:00-	グループ 高齢者施設見学 (Nagomi Foster Home) グループ ホノルルフェスティバル プース展示 (ハワイコンベンションセンター)
		-18:00	ホノルルフェスティバル プース展示
3/8(日)	ホノルル	10:00-	グループ 高齢者施設見学 (Nagomi Foster Home) グループ ホノルルフェスティバル プース展示
		-18:00	ホノルルフェスティバル プース展示
		18:00-	パレード、花火
3/10(月)	ホノルル発	8:00-8:00頃	ホノルル発、空港へ、(フライト11:55発)
3/11(火)	東京着	15:55	(日付変更機通過)

(参考)グループわけ

チーム	氏名	所属
1 A	新倉 之祐	Five Star 訪問看護・栄養管理Station
2 A	富田 のりこ	訪問看護ステーション 駿河
3 A	ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション にこにこ
4 A	高田 雄貴	ケアプロ訪問看護ステーション 東京
5 A	井手 佳美	MEIN HAUS 訪問看護ステーション
6 B	小口 知小江	訪問看護 スマイルナーシング名城
7 B	榎岸 由依	すみれ訪問看護ステーション
8 B	荒木 美穂	楓庭訪問看護・リハビリステーション
9 B	林 聖家	だいもん訪問看護ステーション
10 B	阿西 真理子	あすか山訪問看護ステーション

出発前準備と注意事項について

しおりをご覧ください

ホノルルフェスティバルについて

ホノルルフェスティバル資料をご覧ください

見学先の説明-シャミナード大学-

シャミナード大学 Weiss先生より緩和ケアに関する講義

Chaminade University of Honolulu

ハワイ唯一のカトリック大学であり、米国に3校あるマリアニスト系高等教育機関の1つ。美術と人文科学、科学と数学、行動科学、ビジネスとコミュニケーション、教育、看護の25を超える学部および大学院の学部・学科がある。オアフ島の国際都市ホノルルに位置し、ハワイ、米国本土、太平洋地域などから多様な学生が集まっている。
Web: <https://chaminade.edu/>

Nagomi Foster Homesの見学



寄付、ボランティアで日本人が運営している施設。
末期の患者にホスピスのような一時的な住居、ケア、治療環境、
生活支援サービスを提供している。

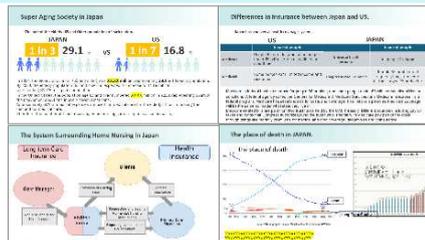
字幕の付け方
動画での説明

参考PPT:

提出フォーム

※締め切り過ぎそうな場合は早めに事務局へご連絡ください
※字幕がつけられない、英語がわからないなどありましたら、早めに事務局に
ご連絡ください

事務局にて情報を整理しました



やること

- ・ 折り紙：折り紙の折り方
- ・ 塗り絵
- ・ ヨーヨー釣り
- ・ ポスター説明
- ・ ラジオ体操説明持っていく

レイアウト案



この後決めなければならないこと

- ① ブース展示内容はこれで良いか
- ② 展示レイアウトはこれで良いか
- ③ 1日のスケジュールについて、担当者の割り振り
⇒小口さん作成のエクセルシート
- ④ 必要物品（持ち物）と物品の調達方法について
- ⑤ 必要な折り紙、ヨーヨー釣り、ハンドマッサージの説明用紙
や説明、運営のためのスクリプト

など

持ち物

※黄色は検討事項

持ち物	用意する物	必要数量	用意する人/持ち方
折り紙	折り紙	香蓮の、和祈、蓮真	事務局
	塗り絵		24日までに個別
	塗り絵のコピー		事務局
ヨーヨー釣り	色紙類		2つ
	折り紙みずり	1	菊吉さん
その他	100個入りヨーヨー	1	事務局
	写真の印刷物	1人1枚	24日までに事務局に送付
	皆さんのプレゼン資料	各2部、合計20部	事務局
	こんにちもは訪問看護の旗	2	事務局

必要の折り紙、ヨーヨー釣りの説明、高橋のための説明スクリプト
必要の塗り絵、ヨーヨー釣り、ハンドマッサージの説明用紙や印刷、高橋のためのスクリプト

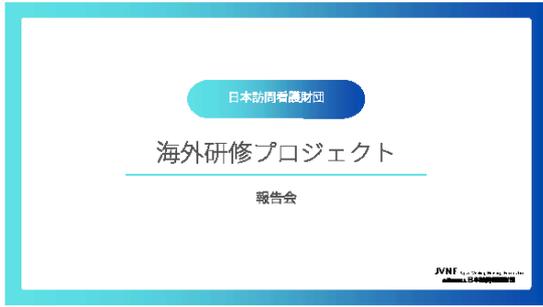
順番	順番
1 榎岸 由依	すみれ訪問看護ステーション
2 荒木 美穂	銀座訪問看護・リハビリステーション
3 富田 のりこ	訪問看護ステーション駿河
4 船倉 之基	Five Star訪問看護・栄養管理Station
5 ロメーロ 麻衣	訪問看護ステーション にこにこ
6 林 聖奈	だいまん訪問看護ステーション
7 小口 紀小江	訪問看護スマイルナッシング名城
8 河西 真理子	あすか山訪問看護ステーション
9 高田 益貴	ケアプロ訪問看護ステーション東京
10 井手 佳葉	MEIN HAUS訪問看護ステーション



質疑応答

それぞれの締め切りを記入しました





在宅ケア会社オンラインプレゼンテーション (土曜日予定) (任意参加) **JVNE** 日本在宅ケア学会
 在宅ケア会社 (Ho'okele Navigators, LLC) オンラインプレゼンテーション



<https://hookenenavigators.com/>

今回見学できなかった在宅ケア会社について、オンラインでの説明、ディスカッションの機会をもちます。先方との時差の関係で、土曜日のお昼頃開始で、6月末~7月に調整中です。参加は任意です。日程調整のフォームをお送りしますので、ご回答ください。

報告書について **JVNE** 日本在宅ケア学会

- ① 皆さんのステーション名、作成頂いた英語PPT資料、今回提出頂いた各自の学びを報告書に掲載させて頂く予定です
- ② 報告書には、それぞれの学びの中から抜粋して、掲載させて頂きます
- ③ 報告書掲載にあたっては、該当箇所について掲載前に、確認のご連絡をいたします
- ④ 報告書は財団ホームページに掲載いたします

事前提出学びたいこと-1 **JVNE** 日本在宅ケア学会

順番	順番
1	林 聖泰 今回の研修で学びたいことは以下の通りです。 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。
2	榎岸 由依 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。

事前提出学びたいこと-3 **JVNE** 日本在宅ケア学会

順番	順番
5	朝倉 之基 海外で介護施設で働く経験が豊富にある方と、日本でも介護施設で働く経験が豊富にある方と、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。
6	小口 紀小江 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。

本日のアジェンダ **JVNE** 日本在宅ケア学会

- 在宅ケア会社オンラインプレゼンテーション (土曜日予定) (任意参加)
- 日本在宅ケア学会について (任意参加)
- 報告書について
- ハワイ研修で学んだことの発表
- アンケートのご協力について

日本在宅ケア学会について (任意参加) **JVNE** 日本在宅ケア学会



<https://plaza.umin.ac.jp/jahc30/index.html>

日本在宅ケア学会学術大会にて、当財団が行っている訪問看護の生涯学習推進事業の一環で、交流集會を開催予定です。PJ参加者の井手さんより、本PJの内容も踏まえて話題提供者として発表頂く予定です。(交流集會採択結果は5月下旬予定)

学んだことの発表 (1人5分) **JVNE** 日本在宅ケア学会

次ページの出発前に提出した学びたいことも踏まえて発表ください

順番	順番
1	林 聖泰 だいもん訪問看護ステーション
2	榎岸 由依 すみれ訪問看護ステーション
3	阿西 真理子 あずか山訪問看護ステーション
4	井手 佳葉 MEIN HAUS訪問看護ステーション
5	朝倉 之基 Five Star訪問看護・栄養管理Station
6	小口 紀小江 訪問看護スマイルナーシング名城
7	ローメロ 麻衣 訪問看護ステーション にこにこ
8	荒木 美穂 看護訪問看護・リハビリステーション
9	高田 のりこ 訪問看護ステーション 駿河
10	高田 雄貴 ケアプロ訪問看護ステーション 東京

事前提出学びたいこと-2 **JVNE** 日本在宅ケア学会

順番	順番
3	阿西 真理子 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。
4	井手 佳葉 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。

事前提出学びたいこと-4 **JVNE** 日本在宅ケア学会

順番	順番
7	ローメロ 麻衣 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。
8	荒木 美穂 ① 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ② 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ③ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。 ④ 日本は、高齢者介護施設のある国で人口も増えています。その中で高齢者介護についてどの程度までいえるかが大切だと感じています。その中で、在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。在宅ケアについて学ぶことが大切だと感じています。

順番	
9	<p>高田 のりこ</p> <p>私がワイ研修で学びたいことは、 ①様々な地域に赴く方が海外文化を仲つたコミュニケーションの心得ること、自分の価値観や視野を広げたいことです。それは自分の成長を促すことにも繋がると感じています。その上で、様々な価値観や文化を人々受け止めているところを学びたいです。私の学業や価値観を仲つてくれる先生や先輩さんを受け止めてくれる人が、大いに勉強意欲を湧かせることができます。また、日本でも異文化でも通用する力を伸ばす方法についても勉強して見たいです。研修で海外に出るにはまだ不安や心配も感じているので、海外で生活していくための準備や、今後は必ず必要な力になっていくと思います。 ②金額から決まった研修費の範囲のなかで、それぞれの良さや工夫を取り自分の勉強意欲に添えたいと思います。また、新しい「勉強意欲」を刺激するアイデアや、自分で勉強したりの成果をいっしょに共有したいです。私は既に勉強意欲は年々目覚ましく増えつつありますが、自分で勉強したり実践したりが出来ていず、新しいものに挑戦せざるを得ない状況です。以上のことが学びたいと考えています。 目的意識にも、人間関係にも学びたいと考えています。研修で参加し、両方の方でも自分も周囲の人も生きてきてよかったと思えるように繋がりたいと考えています。 ③前回の研修でのワークショップを通して、自分と日本の勉強意欲について意識することができた。また、タイのボランティアに参加した際にも日本の勉強意欲が海外には通用するのを知り、興味を持っていく可能性を感じた。これは日本の価値観の差に繋がっているようにも思われる。意識的に異なる価値観や文化の差を学びたい。また、価値観の差の存在をわかって、日本人の価値観でも通用しきれないことも実感した。日本の勉強意欲が海外の方だけでなく、日本の方にもどうやって通用するかが必ずしも通用しない、それを踏まえて、彼等というプログラムでの価値観の差が、どのように海外に馴染み、活用でき、活用しているのかを学びたい。 また、日本の企業や学生にも勉強意欲というものを知らせてもらい、勉強意欲と勉強への意識を高めたり、学生とつながる機会やイベントを創るのかが学びたい。 さらに、すでに卒業生への意識から感じているが、様々な情報を仲つた学習環境が整っている中で、海外でも自分の学習にコミットしたい。その際の勉強意欲を高めるためのアクションを考えていけるような環境をぜひほしい。このプログラムが仲つた仲間同士に活用してほしい。</p>
10	<p>高田 結貴</p>

アンケートについて

今後の財団のPJ運営・企画について参考にさせて頂くため、アンケートをお送りさせていただきます。
今後の参加者のためにもご回答頂けますようお願いいたします。

Slackについて

Slackは今後の参加者の交流のために、継続して設置します。
地域の事業などをやってみたことや海外の発表など、実施してみたことや近況報告、皆様の交流についても、情報共有頂けますとうれしいです。

Appendix 2

英語プレゼンテーション 資料

Introducing the charms of Home health nurse in Japan!



Asukayama Home Health
Mariko Kasai, RN
Public Interest Foundation
Japan visiting nursing
Foundation



About us

- Health care professionals providing of home health for the sick and handicapped living in the community.
- The staff about 30 nurses, therapists, a social worker, and a clerk.



Nurses are involved in activities that not only provide direct care but also nurture the community

- We have several nurses and public health nurses doctoral and master degree prepared.



Our Ultimate Goal: Well-being

Our ultimate goal: To help of clients develop a sense of joy of living and maximize their inherent strength with respect to their dignity and value.

Our Clients



- People living in the community.
- People who need our service, regardless of age or disease.

A Example of Our Care

Client: A female client with tracheostomy and a ventilator
Her desire: Going to a shrine in New Year
Our goal: To make her wish come true



I wants to go to *hatsumoude** (with a ventilator.)



*Hatsumoude is the first visit to a shrine in the year. It is a traditional event in Japan.

Preparation

- Make her body condition ready to go out
- Establish a support system

Transfer to wheelchair with safety and comfort in mind



Two caregiver helps move the patient from bed to wheelchair.

There is no lift, so we had to carry her in our arms.

Maintaining a seated posture



Occupational therapist
How long can she sit for?
Is there any change in respiratory status?
No pain?

I have no problem with that.

Practice sitting in the garden.

Practiced safely and happily



She, her caregiver, and the dog practiced wheelchair outing on bumpy streets.

I'd practice going out even in the rain or cold.

These are assembled and guided by home health nursing.

Great success!



I did it.
I'm going out
more and more
from now on.

11

Japanese home health nurses are meticulous and considerate.

Comfortable Care!
Warmth of a hands,
Kind words,
Care that makes you feel
valued, and
Care for Relaxation.

Work of Art:
A blossom out of hands



Bloom your heart!

12

Create an environment to draw strength

Activation of the
parasympathetic nervous
system draws out the
natural healing power
inherent in the body.



13

Our You Tube Channel Introducing Our Activities ! *Asukayama tsunagaru* channel

A screenshot of the YouTube channel page for 'ASUKAYAMA つながるチャンネル'. The page features a yellow header with the channel name and a QR code. Below the header, there are several video thumbnails, including one titled '動画でメリークリスマス' (Christmas with Video). The page also includes a 'YouTube JP' logo and a QR code for easy access.

14

Home Health Nursing Daimon Seina Hayashi

We support our clients just in the way they are!



Home Health Nursing Daimon

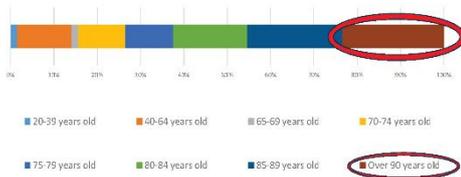
- ▶ Opened May 2018
- ▶ Nursing staff: 4 people
- ▶ Number of clients: About 30 people /month
- ▶ Total visits: About 150 cases /month

Figure source : Imizu City website 「Location and area of the city」
Photo source : Kiraraka Imizu Kankou NAVI 「Imizu Kani Monogatari」
(Kiraraka Imizu Sightseeing NAVI 「Imizu Crab Stories」)

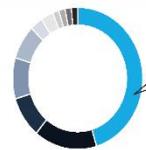


Client Characteristics①

Number of clients by age group



Client Characteristics② Primary diagnosis



Malignant neoplasms or cancer

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ■ Malignant neoplasm | ■ Circulatory disease heart disease |
| ■ Muscle, skeletal, connective tissue, ulcer | ■ Dementia |
| ■ Circulatory disease cerebrovascular disease | ■ Gastrointestinal disorder |
| ■ Nervous system (incurable disease) | ■ Renal/Urologic Diseases |
| ■ Skin disease | ■ Endocrine metabolism |
| ■ Other | |

Client Mrs.A

- ▶ Mrs.A in her 90s with stroke
- ▶ Services: Rehabilitation and bowel movement control

Lots of fun and smiles! 🌟



Client A and her granddaughter, the primary caregiver.

Client Mr.B

- ▶ Mr. B in his 70s with paralysis on the left side
- ▶ Services: Stoma Care, Maintaining body cleanliness, Rehabilitation

Striking a confident peace sign! 🕊️



In a rehab session

Client Mrs.C

- ▶ Mrs.C in her 60s with terminal pancreatic cancer.
- ▶ Services: symptom relief, family support, postmortem procedure together with her family, and grief care.

Her family wished to take her outside for fresh air and breeze.



Grief care provided to Mrs.C's family



A handmade photo board created by her grandchildren

Our Mission!!

We support our clients just in the way they are!



Thank you for listening!!



Source : 2012 Imizu no Jiban Photo Contest Grandpri
「Zekkei」 (Pride of Imizu photo contest grand prix
「Superb view」)

Contributing to creating a symbiotic community

MEIN HAUS
Kana Ide

About us

Japan Kobe

MEIN HAUS home health nurse agency




We visit the patient's home to monitor their condition and administer injections. The nurses are always dedicated to supporting the patient in continuing to live comfortably in their own home.

Symbiotic Services

MEIN HAUS

Day-to-Day

Patient of former English teacher

Jingle, bells!
Jingle, bells!♪

New Initiatives for Realizing a Community Coexistence Society
~ The Challenge to Change the Image of Medical and Nursing Care ~




Japanese candy shop

A place to be mixed with the community!

Thank you for your attention!

MEIN HAUS

Support for Living

~Home Health Nursing in Japan

CarePro Visiting Nurse Station Tokyo
YUKI TAKATA



COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

"I don't want ALS to beat me"



"Someday I will go shopping hand in hand with my wife."

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

Information of our client

Male in his 50s.
Lives with his wife and 4 children.

2018: Diagnosed with ALS
2020: Tracheostomy due to aspiration pneumonia

⇒Started using home health nursing service

【Hobby】
Traveling with his family



COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

Even with illness or disability, people can live a normal life.



On an airplane with a ventilator



Going to a theme park with family



Watching fireworks

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

Service delivery schedule

	Mon	Tue	Wen	Thurs	Fri	Sat	Sun
AM	Nurse	Nurse		Nurse	Ns+Rehab		
	home-visit bathing service			home-visit bathing service			
	doctor's visit						
PM	Rehab	Rehab		Rehab			



A nurse and a PT assist and train him to move from bed to wheelchair.



Home-visit bath



checking VS and ventilator, tracheo and PEG care, etc

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

What Happened during my Visit on One Day

Having trouble breathing, I need help.

How about some medication to aid your breathing?

I'm afraid to use drugs. I don't want to go to sleep after taking medication.

I will ask your doctor to adjust your ventilator.

Please try some breathing rehabilitation.

COPYRIGHT CareproHomeMedicalCare, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

What Happened during the Visit

The doctor adjusted my breathing machine, but I'm still in pain.

Would you like to try some medication for that pain?

Yes, please.

I'll ask your doctor to prescribe some pain medicine for you.

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

What Happened during the Visit

I feel better after using the medicine !

I want to go to Disneyland with my family !

I'll set up a travel plan with the nurses and rehab therapists !

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

What Happened on Another Visit : A Trip to Disneyland!

His nurses and rehab staff carefully conducted a simulation of the trip to Disneyland.

After that, the nurses accompanied him and his family to Disneyland. The trip was a great success !



COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

Since then...



cherry blossoms viewing

first visit of the year to a shrine

go camping

COPYRIGHT Carepro, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

Our clients and our care



In the terminal phase



A child needing medical care



A client with neurological diseases



A client requiring medical management such as ventilators



privately paid service



A client living alone with diseases

COPYRIGHT © 2019 YUKI TAKATA. ALL RIGHTS RESERVED.

What is Home Health Nursing Care?

Our work is an integral part of our client's life

Our client is the main actor and star on the stage of their life.

The home health nurse is a nursing professional who supports the daily life of their client.

We support our client's daily life from "behind the scenes"



COPYRIGHT © 2019 YUKI TAKATA. ALL RIGHTS RESERVED.

Thank you for your attention!

Japanese Home health nurse
YUKI TAKATA

Contact



Website



Mail



COPYRIGHT © 2019 YUKI TAKATA. ALL RIGHTS RESERVED.

For a smile

Nikoniko home health nursing agency





Outline of the office

- ★ Establishment: April 2023
- ★ Location: Kaizu city, Gifu (Population 31,815)
- ★ Total number of service users: 283
- ★ Home health nursing for Psychiatric patients
- ★ Highly medical-dependent care



Characteristics of home health nursing

- ★ The visiting time and number of visits are fixed
- ★ Various living environments
- ★ Not limited to patients of a certain medical departments
- ★ Providing nursing care mainly alone
- ★ A limit to health care items that can be used.




What we do in home health nursing

RE: Bed sore treatment





What we do in home health nursing

RE: Management of Foley catheters

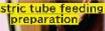




Other things we do in home health nursing







For a smile

Safe medical care can be provided at home.
 We support our clients so that they can live in peace at home in their familiar neighborhoods.

Join me to visit our home health clients in Japan!

Kaedean Home Health Nurse Agency
Miho Araki, RN

Overview of our agency

Location : Takarazuka City, Hyogo Prefecture, Japan

Service area : Within 30 minutes by car

Professionals : nurses, physical therapist, occupational therapists, speech therapists, office clerks

Number of clients : About 170

We accept any people regardless of age or disease.



Care needs of our clients

- End-of-life care
- Dementia care
- Rehabilitation
- Psychiatric care
- Pediatrics care



With our child client and his mother on Halloween Day.

An Example of our Care for our Client at Home

Mrs. A is in her 80s with Alzheimer disease and uterine cancer

Her wishes...

1. To continue living alone at home until she could no longer walk.
2. To listen to her favorite classical music until the end of her life.



She often played the guitar at home.

Our Care for Mrs. A

But...things became difficult as her condition got worse.

What we did...

1. treated her tumor
2. relieved her pain
3. cooperated with her family



She really loved taking a walk.

Our Care for Mrs. A

Mrs. A moved to a nursing home finally. We visited her until her death. Our relationship lasted for 2 years.

A long-term relationship enables:

us to get to know the person and understand the thoughts and personalities of our clients and their families.



We went out for a final walk. She really enjoyed it.

➡ It makes easier for us to help realize client's wishes.

Home Health Nursing Agency Suruga Introduction

NORIKO TOMITA

"Home Health Nursing Agency Suruga" Office Overview

Home Health Nursing Agency Suruga is located in Shizuoka City near Mt.FUJI.

Medical corporation
Ishinkai group
Home Health Nursing Agency Suruga

Adult day care center

Internal medicine clinic



Characteristics of Our Services and Clients

Doctor



Medical Clerk

- There are about 170 clients
- Our agency was established in 1997.
- Most of the caregivers and family members of our clients are also elderly and have chronic illnesses.



In Japanese "老々介護(ROUROUKAIGO)" = "eldercare by elderly"

Works of Home Health Nurses

- Taking vital signs.
- Physical condition assessment
- Providing various types of care depending on the condition of the patient.



Rehabilitation

If it takes about 30 to 60 minutes depending on the client.



Bed bath

Our "SRUGA" agency cooperates with nursing student in their practical training.



"Thanks for coming!"

"I'm glad you're here."

Please come again.



She wishes to remain at home until end of her life. Her daughter is devoted to caring for her. We celebrated her 100th birthday!



Happy 100th Birthday!

Thanks for listening !





Spending One's Final Days at Home ~Support in Japan~

Home-visiting Nurse Agency Sumire, Yui Negishi

Home health nurse



- ✓ Professional services
- ✓ Respecting for people with illnesses or disabilities as people living their lives in their own ways.
- ✓ Supporting for people and their families to cope with their illness and disability in a way that fits their lifestyle

We provide support that is tailored to our client's lifestyle so that he or she can continue to live a normal life at home.

Our home health nurse station



- ✓ Registered nurses specializing in geriatric care
- ✓ Registered nurses specializing in cancer chemotherapy
- ✓ 9 nurses, 2 rehabilitation professionals
- ✓ Building a better community through regular study sessions with other home health agencies in the community.



Characteristics of our clients



(Elderly cancer patients)

- ✓ Have various comorbidities
- ✓ Have large individual differences
- ✓ Some with cognitive decline
- ✓ Have various lifestyles

We aim to provide support that will allow older people in the final stages of their lives to feel as much comfort as possible!!

Example of Care We Provide #1



Patient Overview

- 80s, female, living alone.

Care Goals

- Support her in facing death while staying at home.
- Ensure she is not alone by providing companionship.

Empowering the Patient

- Focus on drawing out her own strength and autonomy.

End-of-Life Support

- Passed away peacefully, surrounded by nurses and caregivers.



Example of Care We Provide #2



Patient Overview

- 80s, female, living with her husband.

Care Goals

- Enable her to lead a normal life, even in the terminal stage.
- Enjoy seasonal events and simple pleasures.

Support Measures

- Continues home IV treatment when she could no longer eat.
- Spending her remaining time peacefully with her husband at home.



Supporting clients' everyday lives



Even with illness,

Even as the end approaches,

We help our clients' live a normal life at home.

Cherishing everyday moments,

Creating comfort and dignity,

and ensuring peace in the time that remains.



We support people with health problem to live a normal life at home!!

Japan Visiting Nursing Foundation

Introduction of Home-Visit Nursing Station



Nurse Innovation
Innovation
03-544-51000

Nurse Innovation CO.,Ltd. CEO
Five Star Visiting · Nutrition management Station
Yukimoto Asakura
y-asakura@nsiv.co.jp

Examples of Home-Visit Nursing practice

Recurrent Aspiration Pneumonia

The patient was unable to void spontaneously, necessitating the insertion of a Foley catheter

The patient is unable to take oral intake and receives nutrition through a feeding tube.

Practical Aspects of Home-Visit Nursing

The patient was unable to void spontaneously, necessitating the insertion of a Foley catheter

at home

In rehabilitation nutrition practice, do not immediately reinsert during exchange.



38.0°C = 100.4°F

Using ultrasound to measure residual urine.

Device removal was performed when the patient regained the ability to walk.

The possibilities of home healthcare provided by visiting nurses.

Supporting individuals to live in a way that reflects their true selves.

Home care has no time constraints like hospitalization.

Persevering with slow and steady progress, never losing hope for potential.

Empowering Lives Through Home-visit Nursing



Hospitalization has a fixed discharge deadline, and the primary focus there is on medical treatment.

In home-based care, nursing care is provided as part of everyday life, prioritizing both daily living and medical care needs.



Practical Aspects of Home-Visit Nursing

Recurrent Aspiration Pneumonia



88%

at home

- Swallowing assessment
- Modifying food texture
- Guidance on self-training

With steady and repeated training, the risk of aspiration was effectively reduced.

Practical Aspects of Home-Visit Nursing

The patient is unable to take oral intake and receives nutrition through a feeding tube



At home

- Rehabilitation Nutrition Practice
- Focused on improving lower limb muscle strength
- Swallowing function training with an advanced approach

Improvement in dietary intake allowed for oral ingestion, leading to the removal of the device.



Home Health Nursing in Japan ~Role of WOC nurse~

Hisae Koguchi, RN
Certified Nurse in Wound, Ostomy and Continence Nurse

Smile Home Health Nursing Meijo

Sharing of photos is with her consent.

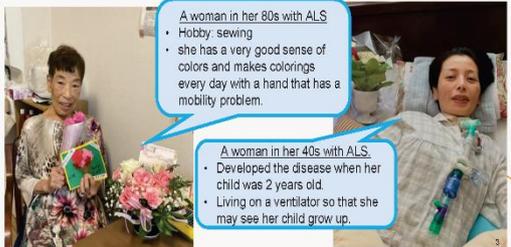
Smile Home Health Nursing Meijo

1. We provide home health and home as well as care at nursing facilities
2. When our clients can no longer live at home, they can smoothly move into our nursing facility that provides a home-like environment and clients' family members can visit them at any time.
3. Nurses live close to the office so that they can provide 24/7 care including emergency event.
4. We can see the famous Nagoya Castle from our office windows.



What we do at Smile Home Health Nursing Meijo

Many users have incurable diseases such as end-stage cancer, Parkinson's disease, myasthenia gravis and amyotrophic lateral sclerosis.



A woman in her 80s with ALS

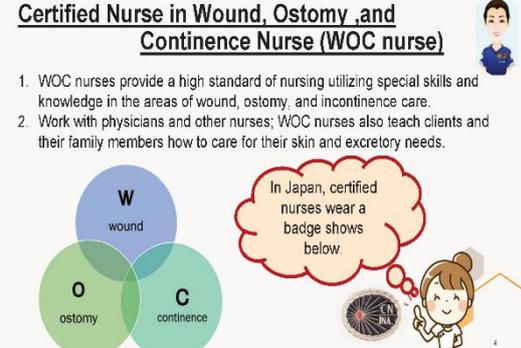
- Hobby: sewing
- she has a very good sense of colors and makes colorings every day with a hand that has a mobility problem.

A woman in her 40s with ALS

- Developed the disease when her child was 2 years old.
- Living on a ventilator so that she may see her child grow up.

Certified Nurse in Wound, Ostomy, and Continence Nurse (WOC nurse)

1. WOC nurses provide a high standard of nursing utilizing special skills and knowledge in the areas of wound, ostomy, and incontinence care.
2. Work with physicians and other nurses; WOC nurses also teach clients and their family members how to care for their skin and excretory needs.



In Japan, certified nurses wear a badge shows below.

What I do at Smile Home Health Nursing Meijo as a WOC nurse

1. Home visits per day as a WOC nurse: 8-10 times
2. Share information and special care with nurses as well as other staff members and family members.
3. My work includes: condition monitoring, catheter insertion, elimination care, skin care, and pressure ulcer care.



This is me.

Teaching excretion and skin care

Consultation and sharing information using iPad



Mahalo (ありがとう)

Appendix 3

ホノルルフェスティバル
展示ポスター

Super Aging Society in Japan

The rate of the elderly (65 and Older) population of each nation.

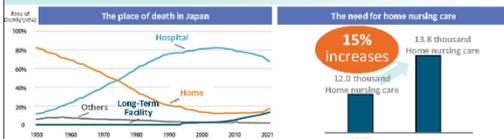


In 2024, the elderly population (65 and older) was **36.25 million**, accounting for **29.3%** of Japan's population. By 2030, the elderly population is expected to increase to **37.16 million**, accounting for **31.2%** of Japan's population.

In the United States, the elderly population (65 and older) reached **55.8 million** in 2020, accounting for **6.8%** of the population, or about one in seven Americans.

Along with the increase in the elderly population in Japan, the demand for medical care is also increasing. Therefore, the number of those receiving home nursing care in Japan is also increasing.

The needs for home nursing care in Japan.



To meet the demand for medical care as the proportion of the elderly population rises, care and support for those who need is increasingly being provided at home as well as in the hospital.

For the same reason, the number of people dying at home is also increasing. Even at home, with the support of home health nurses, care is provided for people with acute conditions such as ventilator and terminal cancer. Thus, home nursing care is increasing. By 2040, the need for home nursing care will increase by 15% compared to 2025. Furthermore, to realize people stay at home with providing home care, home health nurse agencies are started by nurses, rehabilitation, and other professionals.

Differences in Insurance between Japan and the US.

Japan has a universal health coverage system.

US		JAPAN	
	Insured people		Insured people
Medicare	People aged 65 or older, and some people under 65 with certain disabilities or conditions.	Universal health insurance	All people in Japan
Medicaid	People with limited income and resources.	Long-term care insurance	People aged 40 to 64 with certain diseases. All people aged 65 or older.

Japan has a universal health insurance system, and medical insurance is available to all Japanese people. After application, long-term care insurance is available to those who need for care. It can be applied by those aged 40 to 64 with certain diseases, or those aged 65 or older.

The System of Home Nursing in Japan



Home health nursing clients use different insurance schemes depending on the severity of their illness, disability, and care needs.

Home health nurses communicate with primary care physicians and care managers.

In Japan, care managers make care plans for people who use long-term care insurance.

「2024 年度 ハワイ海外研修プロジェクト 報告書」

発行 2025 年 9 月 30 日
発行者 公益財団法人 日本訪問看護財団
〒150-0001 渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5F
TEL : 03-5778-7001
FAX : 03-5778-7009
URL : <https://www.jvnf.or.jp/>

本書の一部または全部について、営利目的で許可なく複写・転載することを禁じます